

2022年度 文部科学省委託事業  
専修学校における先端技術利活用実証研究

日本語教育のための効果的な遠隔授業モデル  
構築プロジェクト

事業報告書

2023年2月

学校法人文化学園  
文化外国語専門学校

## はじめに

本報告書は、2022 年度文部科学省委託事業「専修学校における先端技術利活用実証研究」において、学校法人文化学園文化外国語専門学校が受託した「日本語教育のための効果的な遠隔授業モデル構築プロジェクト」の活動成果をまとめたものである。

2019 年末、海外において新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の集団感染が報告されて以後、世界各国において感染者が急増した。我が国では全国的かつ急速な蔓延に伴い、2020 年 4 月に緊急事態宣言を発令。国民生活は、外出自粛やソーシャルディスタンスといった、今までに経験のない対応が求められることとなる。さらに影響は学校教育にも及び、休校措置、登校自粛を余儀なくされることとなった。一方で、教育の停滞を回避すべく、多くの教育機関はデジタルツールに活路を見出し、オンライン授業をはじめとした新たな学習方式を導入する。これまで国の単位認定基準に則って展開されていた対面式教育から、社会情勢に対応した非対面のオンライン教育が進み、時間と空間を問わない学びの形が取り入れられることとなった。

本プロジェクトでは、そういった背景のもと、緊急事態下にあっても質の良いオンライン日本語教育の提供手法を検討するものである。日本国内の感染状況が落ち着き、対面授業が再開される状況であっても、今後、世界的な感染状況によっては、再び行動に制限がかかる可能性がある。今般のような、未曾有の事態によって日本語教育を提供できない状況となることは、我が国のグローバル化の停滞にもつながりかねない。世界的な混乱にあっても、日本語を学びたい人が安定的に学ぶことができるメソッドを確立し、普及させることが、われわれに求められる至上命題と言える。

昨年度より、日本語教育機関のみならず、産業界や関係団体と連携し、検討を重ねてきた。オンライン教育は多くのメリットがある一方で、これまでの対面授業の方式と比して、教育効果に疑問符がつくことも多い。そもそも従来の日本語教育の手法をオンライン教育で実践することは、果たして最適なスタイルと言えるのか。そういった根源的な問いにも向き合い、これまで培われてきた日本語教育を一旦棚卸して、真に効果的なオンライン教育の手法を整理してきた。今年度はその内容をもとにプログラムを組み立て、実践から検証までを行った。

本プロジェクトの活動が、今後、当分野全体の発展に寄与することを期待している。

2023 年 2 月

日本語教育のための効果的な遠隔授業モデル構築プロジェクト実行委員会  
主幹校：学校法人文化学園 文化外国語専門学校

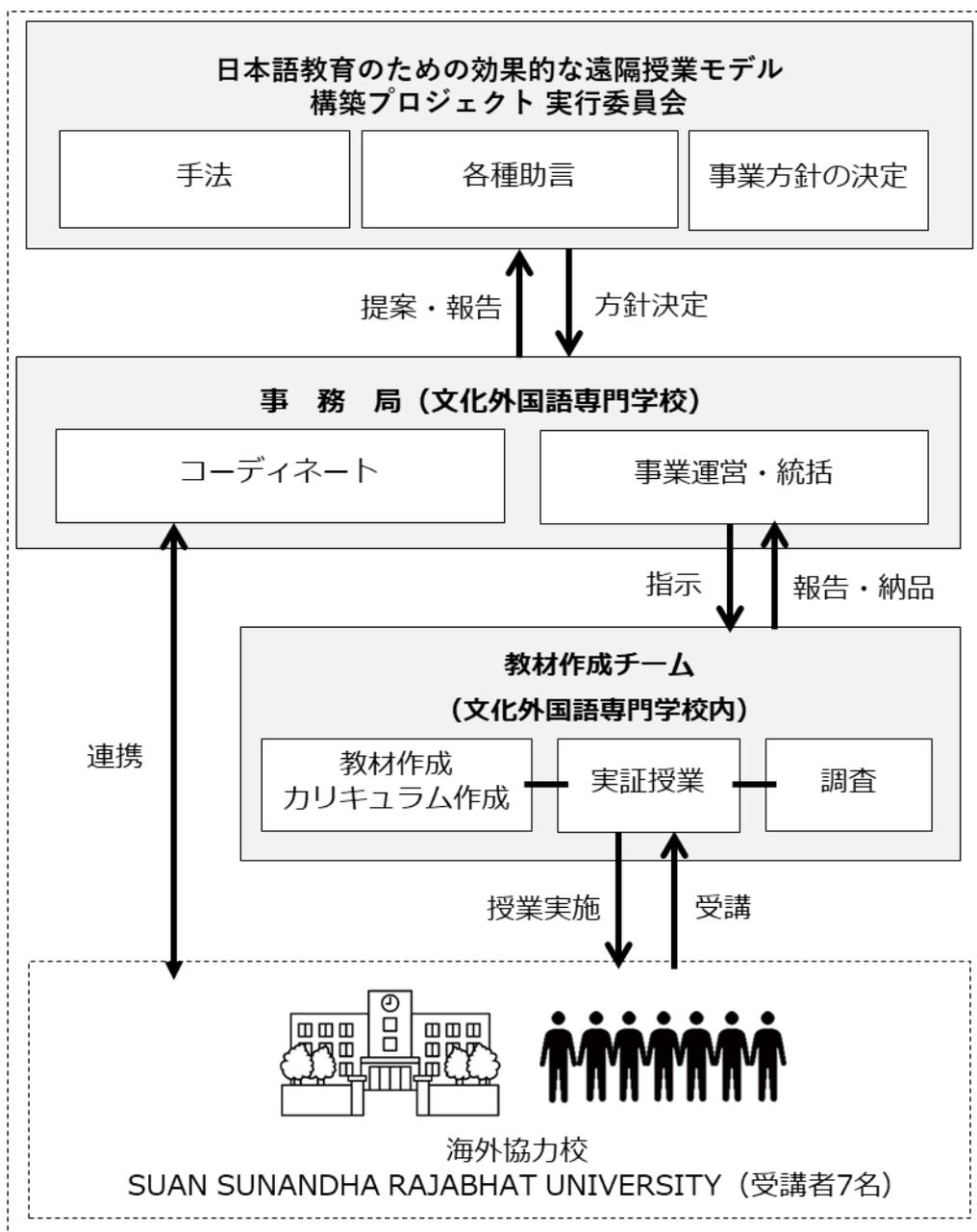
## 目次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| はじめに                         | 2  |
| 目次                           | 3  |
| ・プロジェクト委員会構成                 | 4  |
| ・プロジェクト実施体制 / 会議スケジュール       | 5  |
| 1. プロジェクトの取組概要               | 6  |
| 1-1. 本事業を取り巻く環境              | 7  |
| 1-2. 遠隔授業モデルの設定と運用           | 13 |
| 1-3. プロジェクトの活動計画             | 14 |
| 1-4. 日本語教育の特徴と、期待される課題解決     | 15 |
| 2. 今年度の活動報告                  | 17 |
| 2-1. 「オンライン授業についてのアンケート」実施報告 | 18 |
| 2-2. オンライン授業モデルの設計           | 22 |
| 2-3. 実証授業の実践                 | 27 |
| 2-4. コース評価と分析                | 55 |
| 2-5. 来年度に向けての課題              | 65 |
| (参考資料)                       | 66 |
| 3. 今年度の活動の総括と今後の課題           | 71 |

## プロジェクト委員会構成

| 氏 名    | 所属・役職                               | 役 割     |
|--------|-------------------------------------|---------|
| 西村 学   | 学校法人文化学園 文化外国語専門学校 副校長 教務部長         | 委 員 長   |
| 白岩 麻奈  | 学校法人文化学園 文化外国語専門学校 専任教授             | 教材作成委員  |
| 秋村 ひかる | 学校法人文化学園 文化外国語専門学校 専任講師             | 教材作成委員  |
| 斉藤 佑太郎 | 学校法人文化学園 文化外国語専門学校 専任講師             | 教材作成委員  |
| 小山 千恵  | 学校法人長沼スクール 東京日本語学校 理事・校長            | 実行委員会委員 |
| 加藤 正毅  | 学校法人深堀学園 外語ビジネス専門学校 ICT 推進室長        | 実行委員会委員 |
| 金田 智子  | 学校法人学習院 学習院大学 文学部 日本語日本文学科 教授       | 実行委員会委員 |
| 小河原 義朗 | 国立大学法人東北大学大学院 文学研究科<br>日本語教育学専攻 教授  | 実行委員会委員 |
| 古屋 和雄  | 全国専門学校日本語教育協会 理事                    | 実行委員会委員 |
| 三浦 一生  | ICHIGOICHEL CONSULTING, Inc.代表取締役社長 | 実行委員会委員 |
| 松尾 花穂  | 株式会社アスク出版 日本語編集部チーフ                 | 実行委員会委員 |
| 竹内 孝太郎 | モノグサ株式会社 代表取締役 CEO                  | 実行委員会委員 |
| 渡辺 唯広  | 株式会社凡人社 編集部 編集長                     | 実行委員会委員 |

## プロジェクト実施体制



## 会議スケジュール

### 委員会

第1回 2022年 7月 4日 (月) 16:30 ~ 18:30

第2回 2022年 10月 31日 (月) 16:00 ~ 18:00

第3回 2023年 2月 24日 (金) 16:30 ~ 18:30

# 1. プロジェクトの取組概要

---

## 1-1. 本事業を取り巻く環境<sup>1</sup>

### 我が国の日本語教育の役割

現在の我が国における留学生政策は、1983年に中曽根康弘内閣により推進された「21世紀の留学生政策に関する提言」（通称：留学生受入れ10万人計画）を基本枠組みとしている。当時、日本の留学生受入れ数は他の先進国と比べて際立って少ないことが指摘されている状況にあったなかで、「留学生交流は、我が国と諸外国との相互理解の増進や教育、研究水準の向上、開発途上国の人材育成等に資するものであり、我が国にとって留学生政策は、文教政策及び対外政策上、重要な国策の一つ」とされ、以後さまざまな施策が実行へと移されていった<sup>2</sup>。当時はさまざまな分野において「国際化」がキーワードとなっており、この提言ははじめて高等教育レベルでの教育、研究分野における国際理解、国際協調の推進、途上国の人材育成協力の観点から、総合的な留学生政策として打ち出されたものである<sup>3</sup>。

2008年には、福田康夫内閣のもと「留学生30万人計画」が発表され、その名の通り、2020年を目途に留学生30万人受入れを目指す方針が掲げられた。文部科学省をはじめ関係省庁によりまとめられた「『留学生30万人計画』骨子」<sup>4</sup>には、「我が国への留学生についての関心を呼び起こす動機づけから、入試・入学・入国の入り口から大学等や社会での受入れ、就職など卒業・修了後の進路に至るまで、体系的」な方策を実施することが示されている。具体的には、誘致戦略として「我が国の文化の発信や日本語教育の拡大により、日本ファンを増やして我が国及び大学などへの関心を呼び起こすこと、「海外の大学等と連携して効率的に日本語教育拠点を増加させることにより、海外における日本語教育を積極的に推進」することが掲げられ、また受入れ環境づくりとしては「留学生が留学後困らないよう、日本語教育機関・大学などの日本語教育担当部署をはじめとした国内の日本語教育の充実」（注：下線は筆者）を推進することが明記された。日本語教育は、我が国のグローバル戦略の一翼を担う重要な要素として定位している。

<sup>1</sup> 本節は、『2021年度 文部科学省委託事業 専門学校における先端技術利活用実証研究 日本語教育におけるのための効果的な遠隔授業モデル構築プロジェクト 事業報告書』

(<https://www.bunka-bi.ac.jp/wp-content/uploads/2022/03/2021nendo-jigyohokokusho.pdf> 2022.3) p7-13の内容を更新した上で、再掲したものである

<sup>2</sup> 「留学生受入れ10万人計画」([https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo4/007/gijiroku/030101/2-1.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/007/gijiroku/030101/2-1.htm)) 参照

<sup>3</sup> 武田里子「日本の留学生政策の歴史的推移—対外援助から地球市民形成へ—」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』No.7,p77-88 2006

<sup>4</sup> 「留学生30万人計画」([https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/ryugaku/\\_icsFiles/afieldfile/2019/09/18/1420758\\_001.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/_icsFiles/afieldfile/2019/09/18/1420758_001.pdf)) 参照

計画目標の1年前倒しとなる2019年には、留学生在籍者数312,214人を達成したことが、日本学生支援機構『外国人留学生在籍状況調査』で明らかとなる<sup>5</sup>。2011年に発生した東日本大震災で一時減少した留学生数であったが、その後日本語教育機関等における積極的なリクルート活動や、多くの施策が直接、間接的に留学生の増加に寄与したと言える。

### 新型コロナウイルス感染拡大における諸状況

グローバル化が推進され、インバウンドにおける経済的な好循環も定着していたなか、2019年末に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が海外において確認された。日本では、2020年1月15日に最初の感染者が確認され、以後大型クルーズ船での感染者確認やイベント内でのクラスター発生、医療機関での院内感染などがセンセーショナルに報じられ、国民の危機感は日に日に高まっていった。同年2月末には、当時の安倍晋三首相による全国小中学校への一斉休校が要請されるなど、その影響は教育機関にも及んだ。3月13日には新型インフルエンザ等対策特別措置法が改正され、翌日より施行される。そして同年4月7日、安倍首相は東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の7都道府県に緊急事態宣言を発令し、4月16日には対象地区を全国に拡大した。

当然、この厄災はダイレクトに留学生数にも影響を与えた。COVID-19が世界規模の猛威を振るった2020年の留学生数は、前年度の約10%減となる279,597人<sup>6</sup>。さらに、感染拡大防止の観点から、外国からの日本への入国禁止あるいは制限がされ、本来日本に来て学ぶはずであった留学生が渡日できない状況に陥った。海外由来とされているこのCOVID-19への対策として、国は当初から外国人受け入れを制限する処置を、緩急つけながら行ってきた。海外からウィルスが流入する危険性を排除するための、やむを得ない防衛措置である。2020年10月に入国制限が緩和されたものの、その後再びの緊急事態宣言などを受け、困難な局面となった。2021年に入っても留学生が日本に来ることが難しく、本プロジェクトの主幹校である学校法人文化学園文化外国語専門学校に私費で留学予定であった学生は、結局ほぼ入国が叶わなかった。

---

<sup>5</sup> 日本学生支援機構「2019（令和元）年度 外国人留学生在籍状況調査結果」  
([https://www.studyinjapan.go.jp/ja/\\_mt/2020/08/date2019z.pdf](https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/08/date2019z.pdf)) 参照

<sup>6</sup> 日本学生支援機構「2020（令和2）年度 外国人留学生在籍状況調査結果」  
([https://www.studyinjapan.go.jp/ja/\\_mt/2021/04/date2020z.pdf](https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2021/04/date2020z.pdf)) 参照

## 専門学校日本語教育における現状

緊急事態宣言を決定機とし、日本は外出自粛、人と人との直接的な接触を控えることの推奨、マスク着用、飲食店の営業自粛（短縮）要請など、人々の生活、社会活動は一変した。当然、教育現場においてもそれは例外ではなく、先ほどの小中学校への休校要請を先例に、各学校が学校閉鎖を余儀なくされた。多くが入学式を取りやめる事態となり、学校運営者は4月以後の教育活動をどのように進めていくかの対応に追われた。その中で、ほとんどの教育機関が取り組んだのが、オンラインにおけるデジタルツールを活用した学習方式である。

デジタル需要の高まりは、コロナ禍よりもずっと以前から、産業界を中心に盛り上がりを見せていた。しかし、かつての日本はIT先進国として世界をけん引する存在でもあったが、今では諸外国と比べてデジタル化が進んでいないということが指摘されており、行政や教育環境においては特に遅れていることが問題視されていた。それが今般の有事において表面化し、あらゆる面で見直しが必要という声の高まりにより、必然的に教育現場にも機運が高まることとなった。もともと日本においては、ITを活用した人材育成計画が2000年代初頭のe-Japan戦略を皮切りに進められてきたわけだが、それが真の意味での実現までには至っていなかった。それが今回、奇しくもCOVID-19によって急速に進む結果となったわけである。

日本語教育機関においてもオンライン授業における検討が進められ、授業に落とし込まれていった。この間各学校で取り入れられたオンライン授業ツール、LMS（Learning Management System）をはじめとした支援ツール、アプリケーション、デジタル機材などを組み合わせながら、遠隔授業が展開されてきている。しかし、急速に進んだDX（デジタルトランスフォーメーション）により、学校現場においてはそのインフラ整備や、学生への個別相談などの業務に忙殺された。いかに教育活動を成立させるかに苦心し、授業の質を具に検証する時間が確保できておらず、多くの学校の悩みの種となっている。

再び日本のグローバル戦略を加速させるためには、現在の状況でも教育の質を確保し、学びの環境を維持していくことが重要であることは言うまでもない。それにより、諸外国の留学予定者の信頼を勝ち取り、コロナ収束後に安心して留学してもらうことが、日本語教育機関としての責務と考える。教育の質を落としたり、留学生の日本に対する関心を低下させることなく、遠隔授業を通じて高い水準の教育を実現できる日本語教育モデルの確立が求められている。

## 専門学校における日本語教育

海外や日本の一部大学等において日本語教育の先行研究が進み、理想的な在り方についての提言がなされてきている。反転授業（ジョナサン・バーグマン アーロン・サムズ 2014<sup>7</sup> など）をはじめとした授業実践は世界的な趨勢となり、国が推進する教材のデジタル化やデータにおける学生管理手法なども、効果的かつ効率的な手段として提案されてきた。しかし一方で、専門学校における日本語教育においては、各学校の規模や資金面、業務量など、さまざまな要因で教育改革が進まなかった現状にある。それが、先述のように2020年のCOVID-19の影響により、日本の学校教育全体がデジタル化を急加速させた。日本語教育分野においても、授業資料がデジタル化されたうえでオンライン授業などに活用され、授業データはアーカイブされるなど、今まで進まなかった教育改革が一気に進展する結果となった。

【表1】日本語教育の進展（筆者作成）

|      | 従来の専門学校の日本語教育        | 効果的とされている日本語教育の例           |
|------|----------------------|----------------------------|
| 教育手法 | 講義形式 + 宿題 or 課題      | 反転授業（予習 + リアル教育）           |
| 教材   | 紙ベース教科書・教材・黒板の板書     | デジタル化された教材<br>授業データのアーカイブ化 |
| 学生管理 | 紙ベースのレポートやアナログな課題の提出 | LMSを活用した学生管理システムの活用        |



| コロナ禍の専門学校の日本語教育 |                                   |
|-----------------|-----------------------------------|
| 教育手法            | 対面を中心とし、一部デジタル化された授業              |
| 教材              | 教科書に加え、デジタル化された教材・授業データのアーカイブ化が増加 |
| 学生管理            | LMSを活用した学生管理システムの活用が増加            |

<sup>7</sup> ジョナサン・バーグマン アーロン・サムズ『反転授業 -基本を宿題で学んでから、授業で応用力を身につける』オデッセイコミュニケーションズ 2014)

## 遠隔授業における日本語教育の可能性

日本語教育における遠隔教育およびそのシステムは、すでに多くの先行研究実践（木原郁子・板橋貴子・河住有希子・高邑真弓 2005<sup>8</sup> など）があり、「これらでは概して（中略）有効性や利点が報告されている」<sup>9</sup>。加えて日本語教育は反転学習と相性が良いとされ、先行研究（古川 智樹・手塚まゆ子 2016.6<sup>10</sup> など）においてポジティブな結果が得られている。遠隔教育を用いた日本語教育はコロナ禍を契機として、動画やスライドなどの教材に活路が見いだされつつある。日本語教育で効果的とされる反転授業の観点を取り入れ、教材データや教科書、また日本語教育に特化した様々なシステムを遠隔授業に最適化させることで、専門学校における日本語教育の新たな学習スタイルとして定着させられる可能性を秘めており、検証実践する価値は大いにあると言える。

Google ClassroomをはじめとしたLMSの活用は、遠隔授業はもちろん、COVID-19収束後であっても学習者管理には非常に有効と言える。過去の学習データや教材などにどこからでもアクセスでき、学生の学びの幅の拡張やフォローアップにも有効なツールと評価できる（「オンライン授業アンケート」文化外国語専門学校調査 2020年度実施結果<sup>11</sup>、金孝卿、山田真知子 2019<sup>12</sup> など）。これらツールが今後さらに広がることで、日本語教育の発展が見込めるのではないか。日本におけるオンライン授業をはじめとしたデジタル化の素地は2020年度の1年間で整えられたといえ、次のステップとして「真に効果的な遠隔授業とは」の段階に入った。日本語教育において専門学校で育成された留学生の多くが、最終的に産業界へと輩出され、日本の国際競争力の向上にも期待される人材となる。

質の高い遠隔教育の実現のためには、教育界のみならず産業界の意見も取り入れた多面的かつ専門性を確保したチームで議論することが望ましい。そのような考えのもと、本プロジェクトでは日本語教育業界を支える多様な機関とコンソーシアムを結成し、効果的な遠隔授業モデルを構築していくこととする。

---

<sup>8</sup> 木原郁子・板橋貴子・河住有希子・高邑真弓「遠隔日本語教育の試み-ビデオ会議システムを用いた授業-」『日本語教育方法研究会誌 vol.12』日本語教育方法研究会 p6-7 2005

<sup>9</sup> 村上智子「遠隔教育の有用性と問題点の考察-コロナ禍における遠隔による『インターアクション6』実践事例を通じて」  
(<https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/cms/wp-content/uploads/2021/03/6.Murakami.pdf>)  
参照 2021

<sup>10</sup> 古川 智樹・手塚まゆ子「日本語教育における反転授業実践 -上級学習者対象の文法教育において-」『日本語教育 164号』日本語教育学会 p126-141 2016

<sup>11</sup> 学校法人文化外国語専門学校が2020年10月期入学者を対象にしたオンライン授業へのアンケート結果

<sup>12</sup> 金孝卿、山田真知子「オンラインでのケース学習における学習者の学び -問題解決のための協働的なコミュニケーション-

ンに着目して-』『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』大阪大学国際教育交流センター p43-p52 2019

## 1-2. 遠隔授業モデルの設定と運用

### プロジェクトの目標設定

本プロジェクトは、**日本語教育における反転授業の観点を取り入れた効果的な遠隔教育を実現**することを目標とするものである。現在の社会的背景や、また今後も先行きが不透明な状況の中で、安定的かつ質の高い日本語教育が提供できるモデルを構築する。上記のように、コロナ禍における遠隔授業モデルが待たれる中で、全国の日本語教育機関が導入可能な汎用性のあるメソッドを考案すること、同時に反転授業の手法を用いた効果的な学習法を検討していく。

### 遠隔授業モデル構築のポイント

遠隔授業モデルにおいては、反転学習の観点を取り入れて運用することを想定する。また、日本語教育の可能性や将来性、学習効果検証を行うため、多様な教授法についても検討する。これまでの日本語教育の主流は文型積み上げ型であり、主幹校である文化外国語専門学校においてもこの教育法が採用されているが、行動中心アプローチの教授法や日本語教育の参照枠、CEFR など、遠隔授業モデルに最適な手法は何かを見極め、必要に応じてミックスするなど、あらゆる可能性を考えながら構築を進める。

### 授業モデルイメージ（遠隔授業実践）



※必要に応じ、③④を入れ替えて運用

※開発したモデル及び実証内容は次章において詳述

### 1-3. プロジェクト活動計画

本プロジェクトは、文部科学省委託事業「令和4年度 専修学校における先端技術利活用実証研究」において採択をされ、2021年～2023年度までの期間で事業を運用する計画である。事業全体を概ね5つのステップに分類して遂行していくこととする。

※太枠が今年度（2022年度）の主な実施内容

|   |  |
|---|--|
| 【第1ステップ】<br>情報収集／<br>ニーズの把握／<br>現状の把握／                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・文献、資料、メディア記事、各種セミナーなどから、社会的現状や取組、日本語教育の最新情報などに対する収集を図る</li> <li>・委員会において、蓄積している知識や情報、課題や問題点などを共有</li> <li>・各種アンケート調査を実施し、現状の把握を行う</li> </ul>   |
| 【第2ステップ】<br>遠隔授業モデルの作成／<br>授業教材等の開発<br>※2022年度も継続して実施 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1ステップの情報や知見をもとに、遠隔授業モデルの内容を検討する</li> <li>・文型積み上げ型、行動中心アプローチ、日本語教育の参照枠、CEFRなどの各特性を理解し、遠隔授業モデルに最適化した新たな学習方法を構築する</li> <li>・遠隔授業で使用する教材や反転授業用予習動画を開発する</li> </ul>  |
| 【第3ステップ】<br>モデルの実践／<br>モデルの検証                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2ステップを経て構築された遠隔授業モデルを用いて、主幹校である学校法人文化学園 文化外国語専門学校が協力校に対して実証授業を行う <ul style="list-style-type: none"> <li>▶タイの SUAN SUNANDHA RAJABHAT UNIVERSITY (SSRU) の学生7名に対し、実証授業を実施</li> <li>▶効果検証には、「受講者アンケート」「テスト結果精査」などを用いることとする</li> </ul> </li> </ul> |
| 【第4ステップ】<br>モデルの再実践／<br>モデルの再検証／<br>モデルの再修正           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3ステップで修正されたモデルをもとに、再度実証授業を行う。実証授業は、全国専門学校日本語教育協会会員校の有志学生を対象とする <ul style="list-style-type: none"> <li>▶実証方法は第3ステップと同じ</li> </ul> </li> <li>・モデルの修正作業を行うほか、教育効果とコストとのバランス分析もおこなう</li> </ul>  |
| 【第5ステップ】<br>成果のとりまとめ／<br>成果の発信、普及                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業モデルの成果物（予習用動画教材、授業資料データ教材、活用マニュアルなど）や、検証結果をまとめ、全国の日本語教育機関で活用可能なものとしてとりまとめを行う</li> <li>・全国専門学校日本語教育協会会員校に成果を共有するほか、研究報告会などを通じて発信、普及を図る</li> </ul>   |

## 1-4. 日本語教育の特徴と、期待される課題解決

以下のイメージは、日本語教育の特徴を COVID-19 以前、2020 年のコロナ禍、2021 年度以後に分けたうえで、本モデルの構築により期待される変化を示したものである。

|          |   |                           |
|----------|---|---------------------------|
| 従来の日本語教育 | <p><u>対面におけるアナログな学習方式</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○黒板や紙ベースの教科書 &amp; 資料を用いた対面方式</li><li>○対面授業は円滑なコミュニケーションが促進され、教育効果もある</li><li>○授業が学校完結型で、学生の事情に合わせた学びには限界がある</li></ul> <p><u>アナログな学習・生活管理</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○学生の学習管理や生活管理などを一元管理することは難しく、個別管理で時間が取られる</li><li>○課題提出など、学生は授業がなくても登校を余儀なくされる</li><li>○学校にいないければ、情報を得られにくい</li></ul> <p><u>Point</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○従来のアナログな方式は長い歴史の中で一定程度成熟していたものの、一方で多様な学びを実現することは難しかった</li><li>○学校現場におけるデジタル化がなされてなく、教育の手法や教材のデータ化など、あらゆる面でアップデートが進んでいない。イノベーションが生まれづらい環境にあった</li></ul> | Before Covid-19 ( - 2019) |
| 新たな日本語教育 | <p><u>デジタル対応の学習方式</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>○教材データなどをデジタル化することで常に最新の情報を簡単にアップデートできるため、コストを最小に抑えることができ、教員間のデータ共有もしやすい</li><li>○授業データの保存が容易で、欠席や遅刻への対応もやすく、学生の多様な学びを実現しやすい</li><li>○様々なデータに素早くアクセスでき、学習の効率化や時間短縮など、教育の最適化が進む</li></ul> <p><u>学生管理をデジタルで一元化</u></p>  | 1. with Covid-19 (2020)   |

- 学生の課題提出など、LMS を活用して一元管理
- 学校に登校せずとも、情報の共有が可能になる

#### Point

- コロナ禍でデジタル化が余儀なくされ、急ピッチで実装された遠隔教育は、学生の多様な学びを実現でき、今後の教育でも生かしていけるという実感を得ている
- 一方で、デジタル化における遠隔授業の効果検証に加え、ノウハウ、労力、時間、コストなどの具体的検証には至っていない

#### デジタルをフル活用した遠隔授業の実践

- ネット環境さえあれば空間・時間を問わずに学習の場にアクセスでき、多様な学びをさらに促進
- これまで実現しなかった反転学習の観点を取り入れ、遠隔授業でも質の高い教育を提供
- 教材データや授業動画など、教育をアーカイブして多様な学びの促進

#### LMS を活用し、学生管理の他、教育の質も向上

- LMS の機能活用を拡大し、学生の学習ログ・採点管理やフィードバックなどにも使用
- 学校側は抽出したデータを活用して教材データや学生対応に反映させる

#### Point

- デジタル化で教育改革が起こったことを契機に、プロジェクト内で遠隔教育における反転学習の観点を取り入れた日本語教育を検証できる
- 教育手法、労力、時間、コスト検証など、日本語教育における遠隔授業の課題を、委員会と実践検証を通してクリアにすることができる
- それによりノウハウも蓄積され、成果を広く共有することで、当分野の新たな教育スタンダードの確立に期待できる

以上の期待される課題解決を目指し、2023 年度までに日本語教育による効果的な遠隔授業モデル構築を行っていくこととする。

## 2. 今年度の活動報告

---

## 2-1. 「オンライン授業についてのアンケート」実施報告

### 2-1-1. 調査の目的・背景

本調査は、2021 年度の本校におけるオンライン授業の満足度などについて、本事業における実証授業および本校における今後のオンライン授業の改善に役立てることを目的として、学生を対象に行ったものである。

調査対象の学生は、2021 年 4 月に入学したものの、コロナ禍により来日が叶わず、卒業まで海外からオンラインで授業に出席した学生である。本校では、2021 年 4 月の新年度開始時から 6 月頃まで、海外にいる学生に対して 1 日 2 時間のオンライン授業を行い、予習用の動画などのオンライン教材での自習を 3 時間相当の課題として課していた。それ以降は一部の学生を除き、教室での対面授業に Zoom とスピーカーマイクを用いてオンラインで出席してもらい、入国している学生と同様に 1 日 5 時間の授業を行った。

今回の調査では、2021 年 4 月から 6 月頃までのオンライン授業についてと、それ以降も含めた 1 年間全体の授業に対する感想や意見を聞き、19 人中 18 人から回答を得た。

### 2-1-2. 調査の概要

回答があった学生の人数 : 18 人

回答があった学生の国籍内訳 : 中国 8 人、韓国 4 人、タイ 2 人、アメリカ 1 人、  
インドネシア 1 人、マレーシア 1 人、台湾 1 人

調査方法 : Google Forms (以下「Forms」) のアンケートフォームへの入力

実施期間 : 2022 年 2 月から 3 月

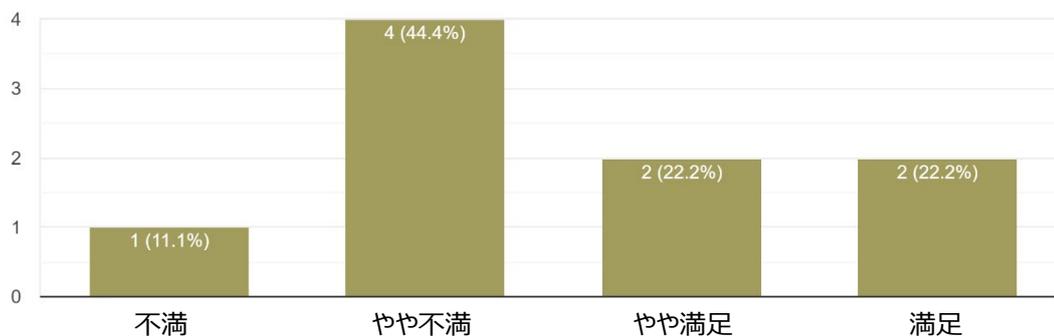
各質問内容については、参考資料「オンライン授業についてのアンケート」質問一覧を参照いただきたい。

### 2-1-3. 調査結果及び考察

アンケートの回答から、本事業におけるオンライン授業モデルの構築や実証授業で課題となると考えた部分を取り上げ、考察を述べていく。

まず、4 月から 6 月までの「毎日 2 時間の Zoom の授業と 3 時間の自習」というスケジュールについての満足度について聞いたところ、次のような結果になった (質問 I -1) 。

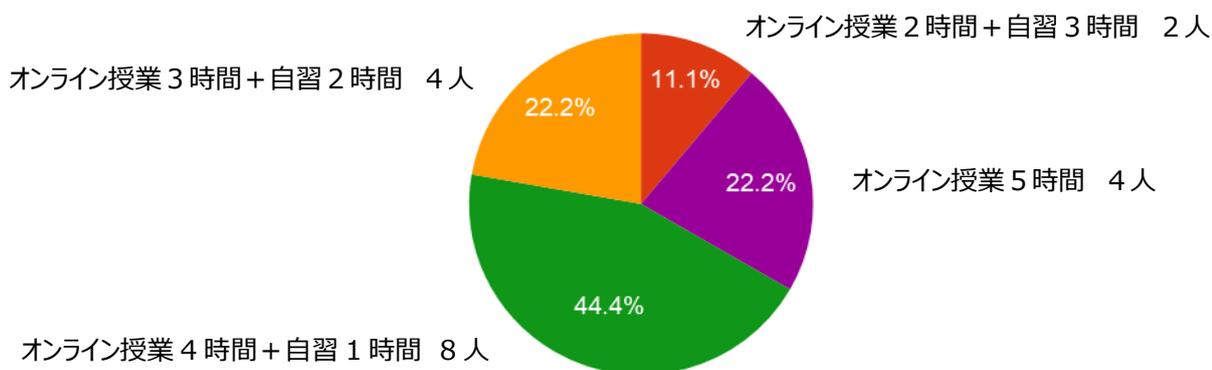
**質問 I -1** 【毎日 2 時間の Zoom の授業 + 3 時間自分で勉強する】というスケジュールでした。  
このスケジュールは満足でしたか。



この質問は 4 月から 6 月にかけての授業について覚えていた 9 人から回答があり、「不満」「やや不満」が合わせて 5 人、「やや満足」「満足」が合わせて 4 人だった。また、回答者のレベル別に見ると、初級 II の学生の方が初級 I の学生より不満と答えた割合が多かった。不満に感じた理由としては、「授業の内容が少なすぎる」「文法を先生と一緒に勉強するほうがいい」「日本語を声で聞くことも勉強になるから、授業で先生の話聞くことが大切だ」といった声があった。

上の質問と関連して、「理想的なオンライン授業の時間」についても尋ねた（質問 II -5）。

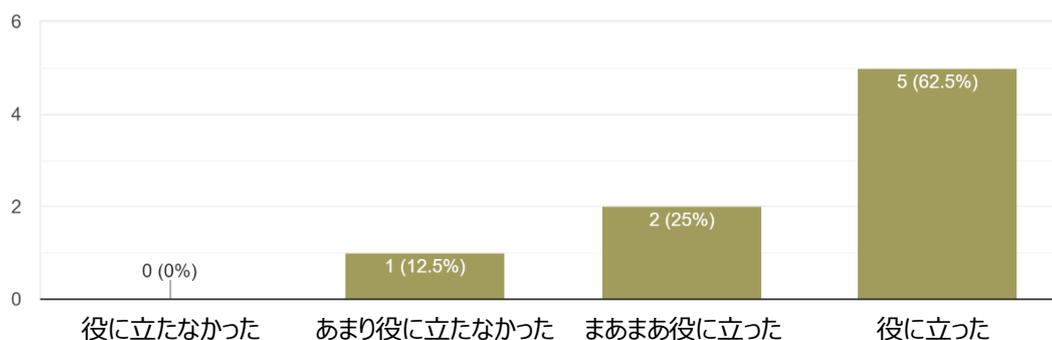
**質問 II -5** 理想的（りそうてき）なオンライン授業の時間を教えてください。



こちらは全員から回答があり、「オンライン授業 4 時間 + 自習 1 時間」が最も多く、次いで「オンライン授業 3 時間 + 自習 2 時間」「オンライン授業 5 時間」だった。「オンライン授業 1 時間 + 自習 4 時間」と回答した人はいなかった。前述のオンライン授業の満足度と併せて考えると、学生は教師と一緒に勉強すること、同期の授業が多くあることを望んでいることが窺えた。したがって、オンライン授業のモデルを考える上でなるべく同期の授業時間を増やすとともに、非同期の自習時間の目的をはっきり伝え、意味のあるものにする必要があると考えた。

次に、自習の課題として配信した「予習動画」が役に立ったかどうかについて質問した結果が以下である（質問 I -3-6）。

質問 I -3-6 動画は役に立ちましたか。



「予習動画」とは、『文化初級日本語 I・II テキスト改訂版』（以下『文化初級日本語 I・II』）に基づき、一つの文型につき 10 分程度で、文型の使用場面や文法事項の説明、宿題などを盛り込んで本校の教員が制作した動画であり、Google Classroom（以下「Classroom」）から配信した。学生は授業の前にこの動画を視聴し、予習や宿題をすることが課題の一つだった。こちらは 8 名から回答があり、「役に立った」が 5 人、「まあまあ役に立った」が 2 人、「あまり役に立たなかった」が 1 人という結果で、ほとんどの学生が活用し役に立ったと感じていることがわかった。また、1 本の動画につき 2 回以上視聴する人が多く、見ながら知らない言葉を調べたり、動画の最後にある宿題をしったりするなどして利用していたことがわかった。このことから、本プロジェクトのオンライン授業でも文法表現を自習する際の教材として役に立つだろうと考え、利用することにした。

また、オンライン授業で大変だったことを質問したところ、大きく二つの面で大変さがあったことがわかった（質問 II -6,7）。一つは、「教科書やプリントなど、ダウンロードあるいは印刷をしなくてはならないものが多い」「教材がどこにあるかわからない」といった「教材、オンラインツールの使い方」に関するものである。オンライン授業は、対面授業とは異なり、わからないことがあってもその場ですぐに隣の学生に聞くといったことができない。オンライン授業に適したわかりやすい教材を作成し、Classroom などのツールをシンプルな操作で利用できるように整備する必要があると感じた。

もう一つは、「友達とコミュニケーションがとりにくかった」「すでに入国している学生と話せず寂しかった」などの「コミュニケーションや心理的な面」に関わるものである。オンライン授業では対面授業以上にクラスの雰囲気づくりやコミュニケーションの取りやすい学習環境づくりが重要であると感じた。

最後に、教師のサポートとしてうれしかったことを自由に記述してもらったところ、複数の学生が進学準備のサポートをしてもらったことを挙げていた（質問 II -9）。海外にいながら日本の学校への進学

の準備をすることは大変だったと思う。教師が学習者の夢や目標に寄り添うことの重要性を改めて感じる回答であった。

こうした回答から、距離が離れていても、学習者間、教師と学習者がつながりを感じられるような学習環境をつくること、学習者の目標に寄り添い、学習者がストレスなく学べるようなコースをデザインし、サポートすることなど、教師としての役割についても改めて考えるきっかけとなった。

## 2-2. オンライン授業モデルの設計

教員や学生に行ったアンケートの分析ののち、本事業におけるオンライン授業モデルの設計を行った。具体的には、次の a.～c.について検討したのち、オンライン授業の効果的・効率的なサイクルとそれに用いるツールを決定した。

- a. 本授業モデル開発の目的および想定する学習者像 \*再検討
- b. 本授業モデルにおける学習目標
- c. 留学場面における日本語能力（Can do）の指標  
（独自の「留学 Can do 参照表」の作成）

a.については、もともと事業採択時に想定していた学習者像があったが、2021年11月以降、新型コロナウイルス感染症に係る国の入国規制が徐々に緩和されてきたため、アフターコロナ時代を見据えた持続性のある学習者ニーズを再度検討する必要が出てきた。2022年2月の実行委員会にて、委員より「海外で初級の学習をしている学習者の中には、母語で学習していたり、日本語使用の機会が少なかったりして、知識はあっても運用力がついていない人が多い」という海外在住の日本語学習者が置かれている環境や実情の紹介があった。また、本校でも入学前に海外で日本語能力試験対策の学習を中心に行ってきた、日本語能力試験 N2 レベルに合格しているものの基本的なやりとり（聞く、話す）ができない学生が入学するケースがある。以上のケースを踏まえ、想定する学習者像を次のように設定した。

### <想定する学習者像>

- ・来日し国内の日本語教育機関で1年間の日本語教育を受けたのち、専門学校や大学への進学を目指す人
- ・国で初級レベルの日本語学習の経験があり、文法・語彙などの知識はあるものの、運用力が不足している人（日本語能力試験対策の学習経験はあるが、聞く・話すなどの実践的な学習の機会が不足している人など）
- ・やりとりはある程度できるが、文法・語彙などの知識が不足していてそれらの補強が必要な人
- ・国で母語を介して日本語教育を受けてきたため、直接法による指導（媒介語を用いない日本語による指導）を受けることに慣れていない人
- ・日本での在住経験がなく、日本での生活に慣れていない人

b.については、a.を踏まえ、すでに日本語学習の経験があり、初級レベルの文法や語彙の知識がある学習者を対象に初級レベルの運用力（話す、聞く、読む、書く）を身につけることを目標とした。また、単に語学力の面だけでなく、日本ででの留学生活を見据えた学習姿勢、例えば、日本語での会話や文章に対応できる学習戦略や姿勢も身につけられるようなカリキュラムを目指すことにした。

c.の作成については、a.および b.の検討を経て取り組んだ内容である。昨年度に引き続き、教材作成チームでは、昨今の日本語教育の新しい動向にも対応した教育モデルの検討を目指してきた。具体的には、文化庁が令和3年10月に取りまとめた「日本語教育の参照枠」<sup>1</sup>（以下「参照枠」）で示された教育内容や手法、評価法を意識し、カリキュラムや教授法の検討を進めてきた。「参照枠」には、3つの「言語教育観の柱」が示されているが、そのうちの1つに「言語を使って『できること』に注目する」という教育の方向性の在り方が示されている。そのような日本語教育を取り巻く社会的な変化と、「運用力を高める」という本事業の教育モデルの目標を踏まえ指導法を検討することにした。検討した結果、文法表現の知識の習得を重視したいわゆる文型積み上げ型の指導ではなく、「行動中心アプローチ」の手法を取り入れ、学習者が社会的な課題の遂行に必要な言語／非言語行動（Can do）が日本語でできるようになることを重視した教育を目指すことにした。

留学生への日本語教育の具体的な内容を決定するためには、留学分野に特化した Can do の指標を参照すべきだと思われたが、2022年4月の時点では留学分野における Can do の参照表がなかった<sup>2</sup>。そこで、独自の「留学 Can do 参照表」（以下「留学 Can do」）を作成した。独自の「留学 Can do」の作成には、主に「参照枠」の「言語活動別の熟達度」「活動 Can do 一覧」「方略 Can do・テキスト Can do 一覧」と厚生労働省が就労場面で必要な日本語能力の目標を設定するためのツールとして令和2年より公開している「就労 Can do リスト（めやす）」および「就労場面における日本語能力：参照表」<sup>3</sup>を参考にした。

独自の「留学 Can do」の完成後、改めて本授業モデルにおける学習目標を「『留学 Can do』A2レベルの運用力（話す、聞く、読む、書く）を身に付ける」とこととした。

---

<sup>1</sup> 文化庁「日本語教育の参照枠 報告」内にあり。

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801\\_01.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf)

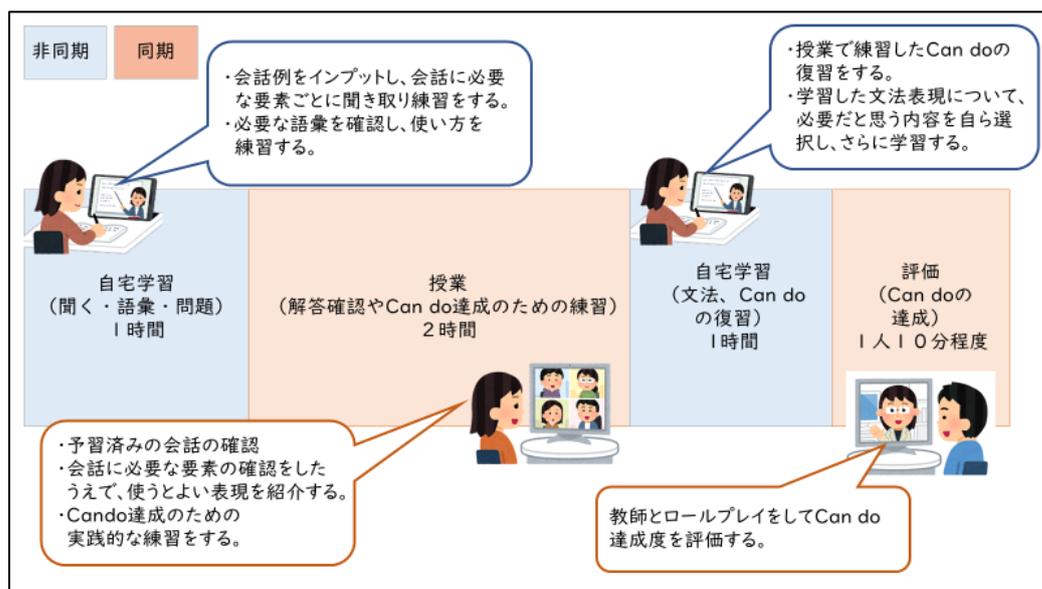
<sup>2</sup> 文化庁では、令和4年6月より「日本語教育の参照枠」を活用した教育モデル開発事業の実施団体の募集を開始した。生活・就労・留学等分野別に「日本語教育の参照枠」を活用したコースカリキュラム・シラバスの開発が行われる見通しであり、留学場面における包括的な Can do の開発が今後期待される。

<sup>3</sup> 厚生労働省「就労場面で必要な日本語能力の目標設定ツール」

[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_18220.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_18220.html)



c.の検討ののち、オンライン授業モデルの設計に取り組んだ。昨年度実施の教員向けアンケートや2-1. で示した学生アンケートの意見を踏まえ、まず授業（同期）と自習（非同期）の1日のバランスを決定した。1日5時間の学習時間のうち、同期授業は1日3時間、非同期授業は1日2時間とした。そのうえで、1つのCan doを習得するためのオンライン授業のモデルを次の図のように設計した。



上記のモデルで効率よく学習をしてもらえるよう、改めてどのようなデジタルツールやサービスを利用するかを検討も行った。次の表は、授業モデルで使用することにしたツールやサービスである。本校の授業で導入済みの学習管理システム（以下「LMS」）である Google Classroom<sup>4</sup>を本モデルでも導入することをベースに、学習者と教師双方が利用しやすい形式、あるいは、教師の教材作成や編集がしやすい形式を目指して Google サービスを中心とした教材作成を行うことにした。なお、令和3年に本事業の企画提案書にて提案した外国語教育支援システム（CALL システム）の活用については、検討の結果見送ることにした。活用を予定していたシステムの運用には Classroom 以外の LMS（サービス提供者独自のもの）が必要であることがわかり、1つのコースで複数の LMS を利用することが現実的ではないことと、安定したネット環境がない場合にはシステムの立ち上げに時間がかかるため、海外在住の学習者には利用しにくいと判断した。このシステムを活用する代わりとして、音声を聞きながら発話練習をするような教材は、教材作成チームで録音、録画して作成した音声や動画のデータを主教材である Google スライドに挿入する形で教材を作成することにした。

<sup>4</sup> 受講者には、本校の学生として利用できる Google アカウントを受講生ごとに作成し、学習期間中付与した。教材利用や授業参加時は、個人のアカウントではなく受講者に付与したアカウントを利用してもらうことにした。

| プロセス | 用途            | ツール・サービス           | 備考  |
|------|---------------|--------------------|---|
| 教材開発 | 主教材           | Google スライド        | Can do ごとに作成し、使用時は予習、授業、復習の3種の用途別に切り分けて教材化する。また、発表のポートフォリオとしても使用する。 |
|      | 主教材に載せるコンテンツ  | Google Forms       | 予習（非同期）の課題で使用する。語彙のクイズや聴解の解答送信に使用する。                                |
|      |               | 音声（mp3）<br>動画（mp4） | 同期・非同期を通して使用する。<br>スマートフォンで録音、撮影する。                                 |
|      |               | PDF ファイル           | 予習（非同期）の課題で使用する。<br>資料など、学生の編集が不要なドキュメントファイル形式のものの配布に使用する。          |
|      | その他（評価等の教材）   | Google スプレッドシート    | Can do の評価シートや、学習時間記録に使用する。LMS に直接置いて管理する。                          |
| 授業運営 | 学習管理システム（LMS） | Google Classroom   |   |
|      | オンライン授業システム   | Zoom               |   |
|      | 連絡ツール（メールソフト） | Gmail              |   |

以上のような手法でオンライン授業のモデルを設計し、その有効性を確かめるべく1か月の実証授業を行うことにした。

## 2-3. 実証授業の実践

### 2-3-1. 受講者の選定

文化学園のバンコク事務所を通じて、タイのバンコクにある SUAN SUNANDHA RAJABHAT UNIVERSITY に協力を依頼したところ、Faculty of Humanities and Social（人文社会学部）の Japanese program 専攻の大学生が協力してくれることとなった。この大学の概要は以下のとおりである。

大学名：

SUAN SUNANDHA RAJABHAT UNIVERSITY

所在地：

1 U Thong Nok Rd, Dusit, Dusit District, Bangkok 10300 Thailand

学部構成：

Faculty of Education（教育学部）

Faculty of Humanities and Social（人文社会学部）

Faculty of Industrial and Technology（産業技術学部）

Faculty of Fine and Applied Arts（美術工芸学部）

Faculty of Science and Technology（科学技術学部）

Faculty of Management Science（経営科学学部）

学生数：

5992 名（2022 年度）

スクールモットー：

立派な知識を持ち、道徳に従い、得られたことをいかしてよりよい社会に導く

大学の特色：

1937 年に創立。文系、理系の 6 学部を有する総合大学であり、バンコク市内の公立地域大学として機能している。

受講者の所属：

Faculty of Humanities and Social（人文社会学部） Japanese program 専攻

Japanese program 専攻の教育内容：

日本語の四技能の習得、実用日本語、学術目的の日本語、インターンシップ等。これらの日本語関連の授業は年間で 1 年生が 12 単位、2～4 年生が 24 単位を修得する。卒業後、大学院でさらに日本語を学ぶ、あるいは、日本語を生かした仕事に就職することを目指す者が多い。

学年ごとの学生数：

1 年生 80 名、2 年生 100 名、3 年生 80 名、4 年生 60 名

担当教員：

タイ人教師 4 名、日本人教師 1 名

この SUAN SUNANDHA RAJABHAT UNIVERSITY（以下 SSRU）の Japanese program 専攻の 1 年生から 4 年生で以下の条件を満たす者を募集し、27 名の希望者を集めることができた。

- ・11 月 8 日から 12 月 2 日（23 日祝日を除く）の期間、特別な理由がない限り毎日（授業 3 時間+自宅学習 2 時間以上）参加できる人
- ・A 2（初級終了）程度の学習歴があり運用力を高めたい人
- ・日本語入力が PC でできる人
- ・Google 社のサービスが使える環境にある人
- ・日本時間の 10 時から 13 時までの 3 時間 PC（要カメラとマイク）で Zoom によるオンライン授業に参加できる人

受講者の選定については、SSRU の教員や本校タイ事務所のスタッフの協力のもと、9 月下旬より進めていった。10 月 4 日に、受講を希望する 27 名の学生と一人ずつ Zoom で 10 分程度のインタビューテストを行った。インタビューテストの具体的な内容は次のとおりである。

#### 1. 本人について

- ・名前と学年、どこに住んでいるか、趣味などの学生自身のことを口頭で質問した。
- ・日本語の文字入力のスキルの参考にするため、自分の名前を Zoom のチャット欄に送るよう指示した。

#### 2. 志望動機の確認

- ・カレンダーを画面共有しながら、実証授業に参加できるかどうかと参加の動機を質問した。
  - ① 11 月 8 日から 12 月 2 日まで平日毎日 5 時間日本語の授業をしなくては行けませんが、大丈夫ですか。（11 月 8 日から 12 月 2 日までの平日毎日、日本時間 10 時～13 時 Zoom で授業と、2 時間ほどの予習と復習の課題があります。）

② 授業にはパソコンで参加できますか。できない場合は何で参加しますか。<sup>5</sup>

③ どうしてこの授業に参加したいですか。

### 3. 研究への協力

この授業が研究のための実証授業であることや、授業内容を公に公開する可能性があることの説明をし、研究に協力してもらえるかの確認をした。

### 4. 日本語学習について

以下から 2, 3 問を質問した。

「今までどのぐらい日本語を勉強しましたか。」

「大学ではどんな勉強をしていますか。」

「日本語を勉強して、何ができるようになりたいですか。」

「日本語で何をするのが難しいですか。」

「日本へ来たことがありますか。留学したいですか。」

### 5. 音読

『文化初級日本語 I・II』の本文を画面共有で見せて音読の様子を確認した。その後、本文の内容に関するものと、その内容に関連した自分自身のことについての 2 つの質問をした。

以上のインタビューテストの結果、日本語で最低限のやりとりができそうな 8 名の受講者を決定した。11 月 8 日から 12 月 2 日までの 18 日間、実証授業を「にほんごオンラインコース」と名付け、実施することにした。なお、1 名は個人的な理由により初日のみ参加し辞退したため、2 日目からは受講者 7 名、教師 2 名で実施することになった。

## 2-3-2. 目標の設定

2-2. で述べた「コースの目標」と「想定する学習者像」をもとに、今回の実証授業では 1 か月でやりとりと発表を中心とした、以下の 13 個の Can do Statement (以下「Can do」) が達成できるようなカリキュラムを作成した。トピックや Can do を選択する際は、本校日本語科で使用してい

---

<sup>5</sup> 「iPad」と答えた学生については Google サービスの教材や Zoom での 3 時間の授業にパソコンとほぼ変わらず受講できる環境が揃っていると判断し受講を認めたが、パソコンや iPad がなく、「スマートフォン」と答えた学生については、今回は受講を断ることにした。

る教科書『文化初級日本語 I・II』に対応した「文化初級日本語 I・II Can-do 一覧」<sup>6</sup>を参考にした。

実証授業で行う言語活動とCan-doの一覧

| 言語活動     | 提出順 | トピック         | Can do   |
|----------|-----|--------------|--|
| 話す(やりとり) | 1   | 大切な物をなくしたら…  | 店などで落とし物をしたとき、自分が落とした物について、説明したり、質問に答えたりすることができる。  |
| 書く(やりとり) | 2   | 欠席のメールを書こう   | 授業に遅刻・欠席をする時に、先生や学校のスタッフにメールで連絡することができる。   |
| 理解する(読む) | 3   | イベントのチラシを読む  | ①イベントの「チラシ」を見て、知りたい情報を探することができる。<br>②「チラシ」の情報を見て、条件にあうプログラムを選ぶことができる。  |
| 話す(やりとり) | 4   | 病院で          | 病院などで、どこが痛いかなどの簡単な質問に対して、短い簡単な言葉で答えることができる。  |
| 話す(やりとり) | 5   | 友達を誘おう       | 友達を誘うために、イベントの日時を伝え、一緒に行くかどうか、短い簡単な言葉でたずねたり、誘いに答えたりすることができる。   |
| 話す(やりとり) | 6   | 道に迷ったら…      | 街中や店内で目的地への行き方を尋ねて、その答えを理解することができる。  |
| 話す(やりとり) | 7   | どうやって行きますか。  | 駅員や近くの人に交通機関を使って目的地まで行く方法を尋ね、その答えを理解することができる。  |
| 話す(やりとり) | 8   | パソコンが動かないんです | 学校の中にある物が使えなくなった時、先生や学校の職員に説明することができる。   |
| 話す(やりとり) | 9   | 遅れてすみません     | 待ち合わせの時間に遅れたり、約束を守れなかったりした時、友達や教職員に簡単な言葉で理由を言って、謝ることができる。  |
| 話す(やりとり) | 10  | 観光アドバイス      | 出身地など自分がよく知っている場所の観光地について、相手に説明しながら勧めることができる。  |
| 話す(発表)   | 1   | 自己紹介         | ・自分自身や家族、趣味など基本的なことを文章にして、自己紹介として発表することができる。<br>・原稿を覚えて話すことができる。話すスピードや声の大きさ、発音に注意して話すことができる。適切な資料が準備できる。  |
| 話す(発表)   | 2   | 私の趣味         | ・自分の趣味や経験したことについて、ある程度詳しく文章にして、発表することができる。<br>・なるべく聞き手の顔を見て話すことができる。話すスピードや声の大きさ、発音に注意して話すことができる。聞いている人に問いかけたり、資料の見せ方を工夫したりしながら話すことができる。   |
| 話す(発表)   | 3   | うれしかった贈り物    | ・家族や友人にプレゼントされてうれしかった贈り物やその時の経験、気持ちについて、ある程度詳しく文章にして、発表することができる。<br>・なるべく聞き手の顔を見て話すことができる。話すスピードや声の大きさ、発音に注意して話すことができる。聞いている人に問いかけたり、資料の見せ方を工夫したりしながら話すことができる。自分の気持ちが伝わるような魅力的な発表ができる。 |

<sup>6</sup> 白岩麻奈, 平川奈津子, 浅野目志乃「JF Can-do を用いた『文化初級日本語 I・II テキスト改訂版』の分析と課題」

([https://www.bunka-bi.ac.jp/wp-content/uploads/2021/02/004031333\\_01c.pdf](https://www.bunka-bi.ac.jp/wp-content/uploads/2021/02/004031333_01c.pdf)) 参照

『文化外国語専門学校紀要』No.33,p.1-29 2021

### 2-3-3. コースデザイン

難易度などを考慮して 2-3-2. で述べた 13 個の Can do の学習する順番を決め、1 か月のカリキュラムを作成した。大まかな流れとしては以下の表のように、やりとりを中心とした 10 個の Can do（以下「やりとり Can do」）の学習と評価を進め、それと並行して 3 つの発表 Can do の学習と評価を実施することにした。

| オリエンテーション  |                          |
|--|--------------------------|
|  | 発表 Can do① 導入、発表原稿作成     |
| やりとり Can do①   |                          |
| やりとり Can do②   |                          |
| やりとり Can do③   |                          |
| やりとり Can do①～③復習   |                          |
| やりとり Can do①～③評価   | 発表 Can do① 発表原稿リライト、発表練習 |
|  | 発表 Can do① 発表、評価         |
| やりとり Can do④～⑥と発表 Can do②、<br>やりとり Can do⑦～⑩と発表 Can do③も同様に進める |                          |
| 文化外国語専門学校日本語科の学生との交流会  |                          |
| ふりかえり  |                          |

コース開始日には、オリエンテーションとして①「にほんごオンラインコース」の Can do リストやスケジュールを見せてコースの目標を共有する ②現時点で 13 個の Can do がどの程度できるかを自己評価し、「Can do 評価シート」に入力する ③このコースで表現を説明する際使用する文法用語（て形、辞書形など）について資料を配布し説明する ④授業中はカメラをオンにすること、遅刻や欠席の際は連絡するなどのルールを確認する ⑤オンライン授業で使う言葉（見えない、聞こえない、パソコンの調子が悪いなど）を紹介する ⑥日本語入力ができるか確認する ⑦Classroom の使い方の説明などを行った後、Can do の授業に入ることにした。

やりとり Can do、発表 Can do の授業については 2-3-6. コースの実施で使用した教材と共に説明する。

受講者が全員同じ大学に在籍するタイ人であることから、コースの最終日には、本校日本語科の留学生との交流会を実施し、日本語を使って他の国の人とやりとりする機会を設けた。

以下が受講者に提示した 1 か月分のスケジュールである。

|              |                       | 11月8日                      | 11月9日                        | 11月10日                         | 11月11日                         | 11月14日                                     | 11月15日                     | 11月16日                     | 11月17日                    | 11月18日                        |
|--------------|-----------------------|----------------------------|------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--|----------------------------|----------------------------|---------------------------|-------------------------------|
|              |                       | 火                          | 水                            | 木                              | 金                              | 月  | 火                          | 水                          | 木                         | 金                             |
|              | 担当教師                  | しらいわ                       | あきむら                         | あきむら                           | しらいわ                           | しらいわ                                       | しらいわ                       | あきむら                       | あきむら                      | しらいわ                          |
| 授業<br>(zoom) | 1時間目<br>(10:00~10:50) | オリエンテーション                  | Cando1<br>「病院で」<br>練習        | Cando2<br>「欠席のメールを書こう」<br>練習   | Cando3<br>「パソコンが動かないんです」練習     | 発表1「自己紹介」(発表表と自己評価)<br><br>Cando1-3の<br>評価 | 発表1「自己紹介」(発表表と自己評価)        | Cando4<br>「イベントのチラシを読もう」練習 | Cando5<br>「友達を誘おう」<br>練習  | Cando6<br>「道に迷ったら…」<br>練習     |
|              | 2時間目<br>(11:00~11:50) | Cando1<br>「病院で」            |                              |                                |                                |  |                            |                            |                           |                               |
|              | 3時間目<br>(12:00~12:50) | 発表1<br>「自己紹介」              | Cando2<br>「欠席のメールを書こう」       | Cando3<br>「パソコンが動かないんです」       | Cando4<br>「イベントのチラシを読もう」       |  |                            |                            |                           |                               |
| 自宅学習         | 4時間目                  | Cando1<br>「病院で」予習          | Cando1<br>「病院で」復習            | Cando2<br>「欠席のメールを書こう」<br>復習   | Cando3<br>「パソコンが動かないんです」<br>復習 | 発表1「自己紹介」(練習)                              | 発表2<br>「私の趣味」<br>(構成メモを書く) | Cando4<br>「イベントのチラシを読もう」復習 | Cando5<br>「友達を誘おう」<br>復習  | Cando6<br>「道に迷ったら…」<br>復習     |
|              | 5時間目                  | 発表1<br>「自己紹介」<br>(発表原稿を書く) | Cando2<br>「欠席のメールを書こう」<br>予習 | Cando3<br>「パソコンが動かないんです」<br>予習 | Cando4<br>「イベントのチラシを読もう」<br>予習 |  |                            | Cando5<br>「友達を誘おう」予習       | Cando6<br>「道に迷ったら…」<br>予習 | 発表2<br>「私の推し！」<br>発表原稿、スライド作成 |

|              |                       | 11月21日                             | 11月22日                            | 11月24日                              | 11月25日                       | 11月28日                       | 11月29日                        | 11月30日                     | 12月1日                      | 12月2日                |        |
|--------------|-----------------------|------------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------------|------------------------------|------------------------------|-------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------|--------|
|              |                       | 月                                  | 火                                 | 木                                   | 金                            | 月                            | 火                             | 水                          | 木                          | 金                    |        |
|              | 担当教師                  | しらいわ                               | しらいわ                              | あきむら                                | しらいわ                         | しらいわ                         | しらいわ                          | あきむら                       | あきむら                       | しらいわ                 |        |
| 授業<br>(zoom) | 1時間目<br>(10:00~10:50) | Cando4-6の<br>評価                    | Cando7<br>「大切なものを<br>なくしたら」<br>練習 | 発表2<br>「私の推し！」<br>リハーサル<br>↓<br>発表会 | Cando8<br>「東京の交通」<br>練習      | Cando9<br>「遅くなってすみません」<br>授業 | 発表3<br>「うれしかった贈り物」<br>リライト&準備 | Cando10<br>「観光アドバイス」<br>授業 | Cando7-10の評価               | 交流会の準備               |        |
|              | 2時間目<br>(11:00~11:50) |                                    |                                   |                                     |                              |                              |                               |                            |                            |                      |        |
|              | 3時間目<br>(12:00~12:50) | Cando7<br>「大切なものを<br>なくしたら…」       | Cando8<br>「東京の交通」                 | 発表3<br>「うれしかった贈り物」<br>説明            | Cando9<br>「遅くなってすみません」       |                              |                               |                            |                            | Cando10<br>「観光アドバイス」 | 交流会の準備 |
| 自宅学習         | 4時間目                  | 発表2「私の推し！」<br>練習(音声提出)             | Cando7<br>「大切なものを<br>なくしたら」<br>復習 | 発表2<br>「私の推し！」<br>自己評価              | Cando8<br>「東京の交通」<br>復習      | Cando9<br>「遅くなってすみません」<br>復習 | 発表3<br>「うれしかった贈り物」<br>発表練習    | Cando10<br>「観光アドバイス」<br>復習 | 発表3<br>「うれしかった贈り物」<br>自己評価 | 授業についての<br>アンケート     |        |
|              | 5時間目                  | Cando7<br>「大切なものを<br>なくしたら…」<br>予習 | Cando8<br>「東京の交通」<br>予習           | 発表3<br>「うれしかった贈り物」<br>発表原稿を書く       | Cando9<br>「遅くなってすみません」<br>予習 | Cando10<br>「観光アドバイス」<br>予習   |                               | Cando7-10の復習               | 交流会の準備                     |                      |        |

#### 2-3-4. 教材の開発

教材は、行動中心アプローチと ID（インストラクショナルデザイン）の考え方を取り入れ、オンラインであることや 同期、非同期それぞれに適した活動が効率よくできるように作成した。やりとり Can do の教材は、「ガニエの 9 教授事象」<sup>7</sup>を参考にして Google スライドで作成した。

また、受講者が自習（非同期）の際に使用する教材は、Google スライドに、Forms、PDF、音声、動画のリンクを挿入し、スライド 1 つ開けば、そこから一人で迷うことなく各教材が使用できるように工夫した。スライドのデザインは、若い世代の受講者にとって少しでも親しみやすいものになるように「Canva」<sup>8</sup>というオンラインで使える無料のグラフィックデザインツールを利用して作成した。また、教材であるスライドは 3 名の教員で分担して作成したが、スライドの構成、字体、フォントのサイズなどを統一し、受講者がどの教材でも戸惑うことなく使用できるように配慮した。

#### 2-3-5. 事前の準備と受講者への連絡

実証授業が始まる前に受講者に、①授業開始時刻と Zoom の URL ②Zoom のアップデートの連絡 ③Classroom への参加 ④「にほんご チェック！」<sup>9</sup>の回答 ⑤アンケートの回答（④のレベルと授業で使用するデバイスや予定する自習（非同期）の時間帯を Forms で回答するもの） ⑥担当教師の連絡先（メールアドレス）を英語とタイ語の翻訳をつけて伝えた。

Classroom は Can do ごとにトピックをたて、そこから予習用教材、復習用教材が使用でき、課題も提出できるようにした。また、「スケジュール」「オリエンテーション」「学習の記録」などのトピックも作り、授業で説明したものは全て Classroom からもう一度見るようにした。そのようにしておくことで、受講者が授業（同期）中、ノートをとることに時間をとられることなく、口頭での練習に集中することができると思ったからである。2-1. で述べたように学生から「教材がどこにあるかわからない」「Classroom の使い方が難しい」などの意見があったため、できるだけ受講者にとってわかりやすく使いやすいものになるよう工夫した。

#### 2-3-6. コースの実施

以下のやりとり Can do と発表 Can do の教材と使用例を 1 つずつ例として紹介する。

- ・「大切な物をなくしたら」（やりとり Can do）
- ・「私の推し！」（発表 Can do）

---

<sup>7</sup> 「ガニエの 9 教授事象」（①学習者の注意を喚起する②学習目標を知らせる③前提条件を確認する④新しい事項を提示する⑤学習の指針を与える⑥練習の機会を設ける⑦フィードバックをする⑧学習の成果を評価する⑨保持と転移を高める）『教師のためのインストラクショナルデザイン 授業設計マニュアル Ver.2』参照 稲垣忠、鈴木克明 編著 2015

<sup>8</sup> 「Canva」 [https://www.canva.com/ja\\_jp/](https://www.canva.com/ja_jp/)

<sup>9</sup> 日本語能力自己評価ツール「にほんごチェック！」 <https://www.nihongo-check.bunka.go.jp/>（参照 2023-02-03）

「大切な物をなくしたら」(やりとり Can do) 授業の流れ

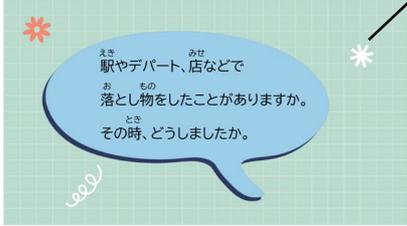
授業(同期) 授業用スライド

①



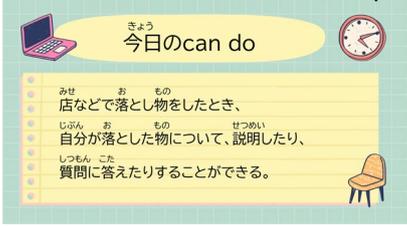
授業(同期)ではスライドを編集画面で使用し、適宜語彙を追加したり文字を隠したりして学習者に合わせて編集しながら使用した。

②



注意を喚起するための学習者への問いかけ

③



目標を知らせる。

④



前提条件として、Can doを達成するために必要な、A2レベルの知識があれば知っているであろう表現を確認する。必要であればこれ以外にイラストや写真、実物なども使用。

## 自習（非同期） 予習用スライド

①



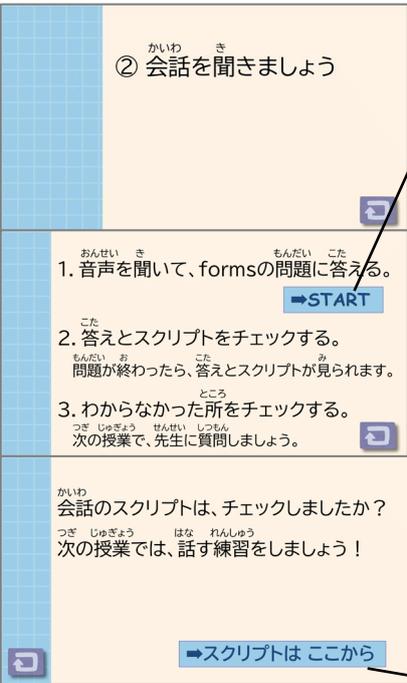
②



学習者は Can do を達成するために必要な言葉の意味を自分で調べ、覚える。

「スタート」を押すと4つの会話の音声が入力された Forms が開き、学習者は会話を聞いて質問に答える。1つの会話に3つの質問があり、学習者は合計 12 回会話を聞く。送信直後、解答が確認できるように設定してある。

③



ここを押すと会話のスキルの PDF が開き、会話の内容を文字で確認することができる。

ここを押すと、言葉の確認クイズとして Forms の問題が開く。Forms は送信直後に解答の正誤が確認でき、満点になるまで何度もできるように設定してある。

## 自習（非同期） Google Forms

①

言葉を覚えましょう（ことばをおぼえましょう）  
「大切な物をなくしたら...」の課題です。

akimura@bunka-bi.ac.jp アカウントを切り替える 保存が無効になっています  
このフォームを送信すると、メールアドレスが記録されます  
\*必須

まず、さいしょに きょうのことばのいみを べんきょうしてください。\*

しました！

なまえ (カタカナ) \*

回答を入力

次へ 1/4 ページ フォームをクリア

Google スライドで言葉の意味や使い方を確認してから練習に進んでもらうため、チェッカーが設けてある。

②

動詞の言葉の問題①

どうしのことばのもんだい

A : スマホは ( ) か。  
B : はい、きょうしつにありました。 5ポイント

見つかりました (みつかりました)  
 なくしました  
 届きました (とどきました)

カバンのなかにノートが ( ) 。 5ポイント

ついています  
 入っています (はいっています)  
 届いています (とどいています)

問題や選択肢の順番はランダムに表示される設定になっており、できるだけ新鮮な気分で反復して練習してもらえるようになっている。複数の意味がある語彙については、Google スライドで示した意味・用法の問題に統一してある。

③

動詞の言葉の問題① 5 / 25 ポイント

どうしのことばのもんだい

✕ A : スマホは ( ) か。  
B : はい、きょうしつにありました。 0/5

見つかりました (みつかりました)  
 なくしました ✕  
 届きました (とどきました)

✓ カバンのなかにノートが ( ) 。 5/5

ついています  
 入っています (はいっています) ✓  
 届いています (とどいています)

問題に取り組んだ後すぐに正誤確認ができるようになっている。解答が間違っているかどうかだけわかるようになっており、答えは Google スライドで学習者自身が再度確認する。

A2 きく・はなす「<sup>たいせつ</sup>大切な<sup>もの</sup>物をなくしたら…」

かいわ  
会話のスク립ト

こた  
答えのチェックはしましたか？

まちが  
間違えたところや聞いてわからなかったところは、このスクリプトでチェックしましょう。



かいわ  
会話1

がくせい  
(A: 学生 B: デパートのサービスカウンター)

A: あの、すみません。スマホをなくしてしまったんですけど、<sup>とど</sup>届いてませんか。

B: スマートフォンですね。お調べしますので、<sup>しら</sup>特徴<sup>とくちょう</sup>を教えてください。

A: <sup>くろ</sup>黒い iPhone です。<sup>しろ</sup>白と<sup>くろ</sup>黒の<sup>しましまよう</sup>縞々模様のカバーがついています。

B: いつ、どこでなくしましたか。

A: わからないんです。

B: そうですか。…iPhone の<sup>お</sup>落とし物<sup>もの</sup>は<sup>とど</sup>届いていないですね…。

A: そうですか…。

B: あとで<sup>み</sup>見つかるかもしれませんので、こちらの<sup>いしつとどけ</sup>遺失届<sup>もの</sup>になくした物<sup>とくちょう</sup>の特徴と、  
<sup>れんらくさき</sup>ご連絡先<sup>か</sup>を書いていただけますか。

A: わかりました。…これでいいですか。

B: はい。<sup>み</sup>見つかったら、<sup>れんらく</sup>ご連絡します。

A: よろしく<sup>ねが</sup>お願いします。

かいわ  
会話2

がくせい  
(A: 学生 B: 交番の警察官)

A: すみません。財布<sup>さいふ</sup>をなくしてしまったんですが…。

B: 財布<sup>さいふ</sup>ですか。どこでなくしましたか。

A: わからないんです。

B: どんな<sup>さいふ</sup>財布<sup>さいふ</sup>ですか。

A: <sup>きいろ</sup>黄色くて<sup>しかく</sup>四角い<sup>さいふ</sup>財布<sup>おお</sup>です。これぐらいの大きさです。

B: <sup>なか</sup>中に<sup>なに</sup>何が<sup>はい</sup>入っていますか。

A: <sup>げんきん</sup>現金<sup>えん</sup>5000円ぐらいとクレジットカードです。

B: そうですか。では、こちらの<sup>いしつとどけ</sup>遺失届<sup>か</sup>を書いてください。

A: わかりました。…これでいいですか。

B: はい。では、<sup>み</sup>見つかったら<sup>れんらく</sup>ご連絡しますね。

A: よろしく<sup>ねが</sup>お願いします。

A2 きく・はなす「<sup>たいせつ</sup>大切な<sup>もの</sup>物をなくしたら…」

かいわ  
会話3

(A: <sup>がくせい</sup>学生 B: <sup>がっこう</sup>学校のスタッフ)

A: あの、すみません。

B: はい、どうしましたか。

A: <sup>きょうかしよ</sup>教科書をなくしてしまいました<sup>とど</sup>んです。届いていませんか。

B: <sup>きょうかしよ</sup>教科書ですか。どんな<sup>きょうかしよ</sup>教科書ですか。

A: <sup>しょきゅう</sup>初級の、<sup>あお</sup>青い<sup>きょうかしよ</sup>教科書です。

B: そうですね。いつなくしましたか。

A: <sup>きのう</sup>昨日です。

B: そうですね。こちらには<sup>とど</sup>届いていないですね。<sup>せんせい</sup>先生にも<sup>き</sup>聞いてみましたか。

A: いいえ、まだです。

B: じゃ、<sup>せんせい</sup>先生にも<sup>き</sup>聞いてみてください。

A: わかりました。ありがとうございます。

かいわ  
会話4

(A: <sup>がくせい</sup>学生 B: <sup>せんせい</sup>先生)

A: <sup>せんせい</sup>先生、すみません。<sup>わたし</sup>私の<sup>み</sup>ノート、見ませんでしたか。

B: ノートですか。どんなノートですか。

A: グレーのノートなんですけど…。

B: <sup>わたし</sup>私<sup>み</sup>は見えていませんね。いつからないんですか。

A: <sup>きのう</sup>昨日からです。

B: そうですね。クラスメイトにも<sup>き</sup>聞きましたか。

A: はい。でも、みんな<sup>し</sup>知らないそうです。

B: うーん、もしかしたら、<sup>ほか</sup>他の<sup>せんせい</sup>先生<sup>し</sup>が知っているかもしれませんから、<sup>き</sup>聞いてみますね。

A: ありがとうございます。お願いします。<sup>ねが</sup>

授業（同期）授業用スライド1

①

たいせつなもの  
大切な物を  
なくしたら…  
A2 きく・はなす

きょう 今日メニュー

1. 会話①～④の確認
2. 今日のcan do
3. can doのポイントと表現の説明
4. 練習
5. ふりかえり
6. 復習

②

かいわ 1. 会話①～④の確認

かいわ 会話①  
(A: 学生 B: デパートのサービスカウンター)  
A: ああ、すみません。スマホをなくしてしまいました。届いてませんか。  
B: スマートフォンですね。お調べしますので、時間を教えてください。  
A: 悪いiPhoneです。白と黒の黒い縦線のカーブがついています。  
B: っつ、どこでなくしましたか。  
A: わからんです。  
B: そうですか…iPhoneの箱をさがして届けていいてね。

かいわ 会話②  
(A: 学生 B: 父方の警察官)  
A: すみません。財布をなくしてしまいましたか。  
B: 財布ですか、どこでなくしましたか。  
A: わからんです。  
B: どんな財布ですか。  
A: 黄色くて面白い財布です。これぐらいの大きさです。

かいわ 会話③  
(A: 学生 B: 学校のスタッフ)  
A: ああ、すみません。  
B: はい、どうしましたか。  
A: 教科書をなくしてしまいました。届いていませんか。  
B: 教科書ですか、どんな教科書ですか。  
A: 初級、青い教科書です。  
B: そうですか、いつ、なくしましたか。

かいわ 会話④  
(A: 学生 B: 先生)  
A: 先生、すみません。私のノート、届ませんでしたか。  
B: ノートですか、どんなノートですか。  
A: グレーのノートなんですが…  
B: 届いていませんね、いつからいんですか。  
A: 昨日からです。  
B: そうですか、クラスメイトにも届きましたか。  
A: はい、でも、みんな知らないうちです。  
B: うーん、もしかしたら、他の先生が知っているかもしれませんから、聞いてみますね。  
A: ありがとうございます、お願いします。

③

きょう 今日 can do

- おせ 店などで落とし物をしたとき、
- じぶん お自分が落とし物について、説明したり、
- しつもん 質問に答えたりすることができる。

この日の学習内容を確認する。

Formsの問題で学習者が間違えていたところを中心に会話の内容を簡単に確認する。

Can do 達成のために必要な行動、会話の流れなどのポイントを説明する。

④

3. can doのポイントと表現の説明

かいわ 会話②  
(A: 学生 B: 父方の警察官)  
A: すみません。財布をなくしてしまいましたか。  
B: 財布ですか、どこでなくしましたか。  
A: わからんです。  
B: どんな財布ですか。  
A: 黄色くて面白い財布です。これぐらいの大きさです。  
B: 黄に縦線が入っていますか。  
A: 縦線5000円ぐらいのクレジットカードです。  
B: そうですか、では、こちらの遺失届を書いてください。

なに 1.何をなくしたか言う。  
もの、せつめい 2.どんな物が説明する。  
しつもん、こた 3.質問に答える。

なに 1.何をなくしたか言う。  
A: すみません、財布をなくしてしまいましたか。  
B: 財布ですか、どこでなくしましたか。  
～てしまった  
どうし、いらい、せんごう(クレジットカード) ……

もの、せつめい 2.どんな物が説明する。  
B: どんな財布ですか。  
A: 黄色くて面白い財布です。  
い形、いめい、めいし 形、名詞  
な形、いめい、めいし 名、名詞

しつもん、こた 3.質問に答える。  
B: 何が入っていますか。  
A: 現金5000円ぐらいとクレジットカードです。  
なにか、はい (～の中に)～が入っている

4.「ありがとうございます」や「よろしくお願ひします」と言う。  
B: はい、では、戻つたらご連絡しますね。  
A: よろしくお願ひします。  
あと、あいせ、なに この後、相手が何かしてくれる時  
B: じゃ、先生にも聞いてみてください。  
A: わかりました。ありがとうございます。  
もう話が終わった時  
B: うーん、もしかしたら、他の先生が知っているかもしれませんが、聞いてみますね。  
A: ありがとうございます、お願いします。

Can do 達成のために必要な表現を説明し、必要なら写真やイラストを使って練習する。他の用法には触れず、今回の Can do に必要な用法だけを説明、練習する。

## 授業（同期）授業用スライド2

①

れんしゅう  
4. 練習しましょう！

れんしゅう  
練習1

A: すみません、**財布** }  
B: { }ですか、どこでなくしましたか。  
A: わかりません。  
B: どんな**財布**ですか。  
A: **黒い・丸い** } これぐらいの大きさです。

れんしゅう  
練習2

A: すみません、**バッグ** }  
B: { }ですか、どこでなくしましたか。  
A: わかりません。  
B: どんな**バッグ**ですか。  
A: **茶色い・革** } これぐらいの大きさです。

れんしゅう  
練習3

A: すみません、**パスケース** }  
B: { }ですか、どこでなくしましたか。  
A: わかりません。  
B: どんな**パスケース**ですか。  
A: **小さいピンク** } これぐらいの大きさです。  
B: 中に何が入っていますか。  
A: **定期券・学生証** }  
B: そうですか、では、こちらの**遺失届**を書いてください。  
A: わかりました...これです。  
B: はい、では、見つかったらご連絡しますね。  
A: { }

ターゲットである留学生などのパートをリピーティング、シャドーイングなどで段階的に見ないで話せるまで練習する。

学習者はブレイクアウトルームでペア練習をする。ターゲットではない警察官などの役はスクリプトを見て話してもよい。教師は順番に練習の様子を観察、適宜フィードバックを与える。ペア練習が終わったらメインルームに戻り何組かの発話を皆で聞き Can do が達成できているか確認する。

一人一人自分で Can do のポイントごとに星の数 1～3 個で評価する。学習者に指で示してもらい、教師も学習者のふりかえりを確認する。

②

ロールプレイに  
チャレンジしてみよう！

ロールプレイ 1

あなたは**財布**をなくしました。

B(警察官)の人は、これを見てください。

A: { }  
B: { }ですか、どこでなくしましたか。  
A: { }  
B: どんな { }ですか。  
A: { }

ロールプレイ 2

あなたは**バッグ**をなくしました。

茶色い**革**の**バッグ**です。

中に**財布**と**在留カード**が入っています。

交番の**警察官**になくした物について説明してください。

B(警察官)の人は、これを見てください。

A: { }  
B: { }ですか、どこでなくしましたか。  
A: { }  
B: どんな { }ですか。  
A: { }  
B: 中に何が入っていますか。  
A: { }  
B: そうですか、では、こちらの**遺失届**を書いてください。  
A: { }  
B: はい、では、見つかったらご連絡しますね。  
A: { }

③

5. ふりかえり

| can doのポイント                          | ★★★★ |
|--------------------------------------|------|
| 1. 何をなくしたかを言うことができました。               | ★★★★ |
| 2. なくした物がどんな物かを説明できた。                | ★★★★ |
| 3. 質問に答えることができました。                   | ★★★★ |
| 4. 「お断りします」や「ありがとうございます」を言うことができました。 | ★★★★ |

## 自習（非同期）復習用スライド

①



復習用スライドには授業（同期）で説明、練習につかったスライドのページも含めて配布し、授業の内容を確認しながら復習ができるようにした。

②

②

ロールプレイの復習

授業で練習したロールプレイを復習しましょう。

ロールプレイの問題を読んでから、ビデオを使って練習しましょう。

ロールプレイ

- あなたはバスケースをなくしました。
- 小さいピンクのバスケースです。
- 中に定期券と学生証が入っています。
- 交番の警察官になくした物について説明してください。

授業（同期）で練習したロールプレイが何度でも練習できるように相手役が話している動画を挿入してある。学習者はそれを見ながら復習する。

③

もっと文法を勉強したい人は、ビデオを見てから、言う練習をしましょう。

絵を見て、例のように答えましょう。

例) お皿を割る

A: どうしたんですか。

B: お皿を割ってしまったんです。

- セーターを探す
- 宿題を忘れる
- 財布を落とす
- イヤリングをなくす

Can do 達成のために必要な表現として授業（同期）で説明した文法項目が学習できるような動画を挿入してある。ここを押すと7分程度の文法を解説した動画が見られる。

④

復習おつかれさまでした！

次もがんばりましょう！

動画で説明を聞いた表現について、話す練習ができるように音声が入っている。イラストを見ながら会話形式で練習ができる。

## 「私の推し！」（発表 Can do）授業の流れ

### 授業（同期）2コマ 導入、例を見て内容や構成を確認する

- Can doを確認する。
- 好きなキャラクターや有名人、友達に勧めたい作品や活動などがあるか聞く。
- 教師が例として、自分自身の「推し」をテーマに2種類（プロ野球の球団カープ、フィギュアスケーター羽生結弦）の発表をし、その内容を確認する。
- 教師の発表の原稿を見せ、構成と発表で使う表現を確認する。

例) みなさんは、スポーツが好きですか。（問いかけ）

今日は「カープ」という野球チームについて紹介します。（テーマの提示）

試合を見に行く時は、このように「カープ」の色の赤い服やユニフォームを着ていきます。/こうやって近くの人とバットでハイタッチをします。（ジェスチャーや実物、イラストなどを見せながら使う表現を確認する）

- 学習者は発表のテーマを考える。
- 目標と今後のスケジュールを説明する。

#### <目標>

##### ①原稿の内容

- 何が好きか言えた
- 好きな理由が言えた
- 楽しみ方や経験が話せた
- 気持ちが話せた

##### ②発表の仕方

- 原稿をなるべく見ないで話せた
- 声の大きさ、スピードに気をつけて話せた
- 発音、アクセントに注意して話せた
- 聞いている人にわかりやすいように写真や資料が準備できた
- 聞いている人に話しかけたり、質問したりしながら話せた
- 時間（3分程度）が守れた



#### 自習（非同期）2コマ 発表原稿の構成メモを書く

- ・学習者は発表のテーマを決めて、構成メモを Google ドキュメントで作成する。教師はそれを Google ドキュメント上で添削する。
- ・発表に使うスライドを作成する。発表の時に見せる物があれば準備する。

#### 授業（同期）2コマ 発表原稿を完成させる

- ・添削した構成メモを返却して、フィードバックをする。
- ・発表の目標を確認する。
- ・発表の際の工夫、問いかけや説明などを加えるよう確認する。
- ・学習者は発表原稿とスライドを完成させる。
- ・終わった人から発表の練習をする。

#### 自習（非同期）1コマ 発表の練習

- ・学習者は発表の練習をする。
- ・自分の発表の音声をスマートフォンで録音して、クラスルームに提出する。

#### 授業（同期）1コマ リハーサル

- ・ブレイクアウトルームで個室に入り、教師は一人一人の発表を見て、フィードバックする。その際、提出された音声を学習者といっしょに聞きながらフィードバックしてもよい。リハーサルは他の学習者とペアで行いアドバイスし合うこともできる。

#### 授業（同期）1コマ 発表

- ・一人ずつ画面共有をしてスライドを見せたり、実物を見せたりしながら自分の「押し」について発表する。教師は発表を録画して、学習者の発表のポートフォリオになる Google スライドに挿入する。
- ・発表後、教師も学習者も感想を伝え合う。

#### 自習（非同期）1コマ 評価

- ・学習者は自分のポートフォリオに挿入された発表の録画を見て、目標が達成できたか自己評価をし、感想を記入する。
- ・教師は学習者の評価と感想をふまえ、ポートフォリオにフィードバックやアドバイスを記入する。

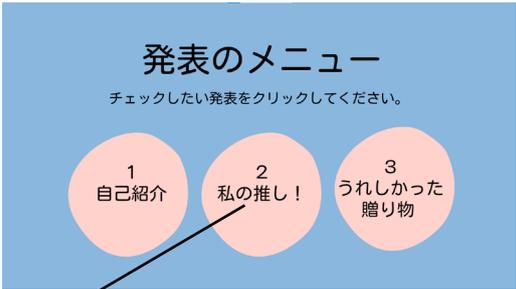
# Google スライド「発表の記録」(発表のポートフォリオ)



1人1つずつスライドを配布する。

教師は一人一人の発表を録画し、スライドに挿入する。学習者は録画を見て、自己評価を星の数で表し、感想を書く。

| 発表順 | 題目        | 発表者 | Can do | Can do(英語)  | Can do(中国語) |
|-----|-----------|-----|--------|---|-------------|
| 1   | 自己紹介      |     |        | Can give a short introduction, including name, family, hobby and other basic information. Can describe a person, place, thing and an event. Can describe the aspects and details of an object and give a simple explanation of its use. Can describe a person, place, thing and an event. |             |
| 2   | 私の推し      |     |        | Can give a supporter detailed and coherent presentation on a topic or issue. Can use a range of language to describe and explain. Can use a range of language to describe and explain. Can use a range of language to describe and explain.   |             |
| 3   | うれしかった贈り物 |     |        | Can give a supporter detailed and coherent presentation on a topic or issue. Can use a range of language to describe and explain. Can use a range of language to describe and explain. Can use a range of language to describe and explain.   |             |



## 2. 私の推し!

感想を書きましょう  
(発表でよかったこと・もっと頑張りたいこと・他の人の発表を見ていいと思ったことなど)

実は普段私は発表するのが怖いんですけど、こんなに楽しいのは初めてです。やっぱり自分の好きなことを言うのが楽しいですね(笑) 今回も自分よく頑張ったと思います。発音はあまりできないと思います。でも次回もっと頑張ります!

他の人の発表もすごく楽しかったです! みんなの好きなことへの愛は本当に素敵で感動しました。

### Can doをチェックしましょう①

|           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| ☆はいくつですか? | Can do (発表の内容 はっぴょうのないよう)     |
| ☆☆☆       | 何が好きか言えた (なにがすきか言えた)          |
| ☆☆☆       | 好きな理由が言えた (すきなりゆうが言えた)        |
| ☆☆        | 楽しみ方や経験が言えた (たのしみかたやけいけんが言えた) |

### Can doをチェックしましょう②

|           |  |
|-----------|--|
| ☆はいくつですか? | Can do (発表のしかた はっぴょうのしかた)                                    |
| ☆☆        | 原稿をなるべく見ないで話せた (げんこうをなるべく見ないではなせた)                           |
| ☆☆☆       | 声の大きさやスピードに気をつけて話せた (こえのおおきさやスピードにきをつけてはなせた)                 |
| ☆☆        | 発音やアクセントに注意して話せた (はつおんやアクセントにちゅういしてはなせた)                     |
| ☆☆☆       | わかりやすいように写真や資料が準備できた (わかりやすいようにしゃしんやりょうがいっぴんできた)             |
| ☆☆        | 聞いている人に話しかけたり、質問したりしながら話せた (きいているひとにはなしかけたり、しつもんしたりしながらはなせた) |

3つの発表の録画と評価のページを作っておき、それぞれのページに移動できるように設定する。

教師は学習者の自己評価と感想を読んで、コメントやアドバイスを記入する。

### 教師からのコメント

- 自分の好きな人について、堂々(どうどう)と発表することができましたね。さんも自分で書いていましたが、さんが夢中になって発表をしている様子だったので、私も熱心に聞くことができて、本当に素晴らしい発表でした!
- 話すスピードや声はバッチリです! これだけ堂々と発表できたので、最後の発表や大学での発表の活動も自信を持って取り組んでくださいね。
- さんは、「(上手な?) 発音があまりできない」と書きましたね。発音はできているんですが、「なめらかさ(smooth)」が足りないのかもしれないですね。なめらかな発音の練習には、「シャドーイング」の練習が効果的です。効果的な練習方法のURLを紹介するので、ジェルさんについてなど、好きな音声を使って練習してみてください。  
<https://www.japanese-pronunciation.com/eng/movie/intonation6/>  
(あきむら)

毎回の授業（同期）の最後には必ずその日の課題を画面共有して確認した。学習者は課題として毎回スプレッドシート「学習時間の記録」に授業（同期）の感想と自習（非同期）した時間や課題以外の学習内容を記録した。教師はそれと課題の提出状況を確認して、授業（同期）の際、学習者に適宜コメントしたりアドバイスを与えたりした。

| 名前（ 学生A ） |     |   |               |   |
|-----------|-----|---|---------------|---|
|           |     | zoomの授業はどうでしたか。   | うちで何分勉強しましたか。 | オンラインコースの課題以外にどんな勉強をしましたか。あれば書いてください。     |
| 例)        |     |   | 120分          | ex.) 日本のドラマをyoutubeで見た、JLPT N2の単語を覚えた     |
| 11月8日     | 火曜日 | 問題がありましたが、修正できました。  | 70分           | 『あきこと友だち』という本で読みました。                      |
| 11月9日     | 水曜日 | 言葉が覚えられるので、楽しかったです。   | 90分           | 大学の先生のPDFで見ました。                           |
| 11月10日    | 木曜日 | メールを書くことがありますから、かなり簡単です。そして、友だちとメールを書きましたから、楽しかったです。              | 110分          | ゲームの日本語ナレーションで聞きました。                      |
| 11月11日    | 金曜日 | 面白い言葉を見た時、とてもびっくりしたが、楽しかったです。                                     | 30分           | 声優の話して聞きました。                              |
| 11月12日    | 土曜日 |   |               | アニメで見ました。                                 |
| 11月13日    | 日曜日 |   |               | 声優の話して聞きました。                              |
| 11月14日    | 月曜日 | テストがありますから、とても心配でした。そして、私の部屋は寒いので、気分がちょっと悪いです。                    | 120分          | 声優の話して聞きました。                              |
| 11月15日    | 火曜日 | 発表があるので、心配でした。でも、発表する前に、iPadはまた問題がありましたから、心配はなくなりました。とても可笑しかったです。 | 150分          | 『あきこと友だち』という本で読んで、声優の話して聞きました。            |
| 11月16日    | 水曜日 | 新しいウェブサイトを知っています。とても面白かった。  | 190分          | ウェブサイトを読んで、声優の話して聞いて、ゲームの日本語ナレーションで聞きました。 |

学習者は、上の例のように、実証授業の課題以外にも日本語の本やアニメ、趣味に関する動画などを見て、なるべく日本語に触れる時間を持つようにしていた。

最終日に行った本校日本語科の学生との交流会は、互いに1、2名ずつ合計4名程度の小さいグループで自由に会話した。その後、実証授業の受講生はメッセージをPDFにして日本語科の学生に送り、日本語科の学生からは手書きのメッセージを後日タイのSSRUに郵送し、メッセージの交換を行った。

最終日、最後の時間に全員全てのCan doが達成できたことを確認し、修了証書（PDF）を授与することを発表した。画面越しではあるが、記念に全員で集合写真を撮って、PDF化し配布した。

### 2-3-7. ツールの運用について

今回の実証授業で利用したオンラインツールについて、実際に運用して感じた利点や、配慮・工夫した点及び困難を感じた点を述べる。

## 1) Google Classroom について

Classroom の画面は、文字情報のみでトピックや項目を視認しなければならない。そのため、目的のトピックを探しやすいように、タイトルに絵文字を用いた。

|   |  |
|---|--|
|  <b>スケジュール</b> |  <b>学習の記録 (がくしゅうのきろく)</b> |
|  11月28日～12月2日  |  交流会の準備と感想                |
|  11月21日～11月25日 |  学習 (がくしゅう) のふりかえり        |
|  11月14日～11月18日 |  発表の記録 (ポートフォリオ)          |
|  11月8日～11月11日  |  Cando評価 (ひょうか) シート       |

また、上と同じ理由で、授業の各トピックの表記の仕方を統一し、視認性を保つようにした。

|   |
|---|
|  <b>ともだちをさそおう</b>    |
|  友達を誘おう：予習 (よしゅう)    |
|  友達を誘おう：復習 (ふくしゅう)  |
|  <b>みちにまよったら</b>   |
|  道に迷ったら：予習 (よしゅう)  |
|  道に迷ったら：復習 (ふくしゅう) |

## 2) Google スライドについて

Google スライドの最大のメリットは、「Web に公開」の機能によって、予習や復習のスライド教材をスライドショーの形式で学習者に配信できる点だと思われる。受講者はスライドショーを自分で進めて、スライド上に挿入されたリンクから課題や動画を開いて勉強を進めることができた。Microsoft PowerPoint では、スライドショー形式での配信ができず、PDF に変換するか、ファイルごと共有するしかなく、上のような運用は難しいと考えた (2022 年 7 月現在)。Google スライドを利用したことで、シンプルで使いやすい教材を作成できたのではないと思われる。

また、スライドを「ポートフォリオ」として利用したのも有意義な試みであった。2-3-6. で述べたように、受講者が編集可能なポートフォリオ用のスライドを Classroom から配布し、受講者は教師が録画、挿入した発表の動画を見て感想を入力したり、Can do の達成度を入力したりでき、教師からのコメントを見ることもできた。これも Classroom を通じてスライドを教師と学習者間で共有できる機能によって実現できたものであった。

そして、教材制作の面からは、Google ドライブ上での教師間の共有が容易であることも大きなメリットだった。制作中の教材スライドの相互チェックや相談などを同じ画面を見ながら遠隔でもスムーズに進めることができた。

一方、デメリットとしては、授業時にスライドショー機能で画面共有すると、教師が予め設定した流れでしか教材を進められないという点がある。そのため、実際の授業では編集画面のまま画面共有し、設置した目隠し用のオブジェクトを手動でずらして答えを見せる、フリーハンドで書き込みをすることなども併用した。

また、Google スライドは使用できる日本語のフォントの種類が限られており、今回は「BIZ UDPGothic」という教科書体に最も近いフォントを採用したが、もう少し種類が豊富であれば見出しと本文を異なるフォントで示すなど、視認性を高める工夫ができたのではないと思う。もう一点、スライド上の複数のオブジェクトを範囲選択して操作可能な状態にする時、少しでも触れたオブジェクトは同時に選択されてしまうため、オブジェクトの移動や編集が効率よくできなかった。そのため、ふりがな付きの会話スクリプトはスライド上での作成が困難だったので、Microsoft Word で作成しスクリーンショットで貼り付けるという手順で作成することにした。

### 3) Google Forms について

このサービスは本来アンケートの作成と管理を行うためのサービスだが、予習のスライドと組み合わせることで、教材としての可能性を引き出すことができたのではないと思う。語彙の予習では、スライドで言葉を勉強してから、Forms の課題に取り組んでもらった。Forms に解答を入力し送信すると直後に間違った所が確認でき、質問の順番と選択肢の順序をシャッフルしてランダムに表示する機能によって、言葉をしっかり覚えるまで何度でもチャレンジできるようにすることができた。また、聴解の課題では、Forms に音声ファイルのリンクを貼ることができたので、受講者はスムーズに課題に取り組めたのではないと思う。

Forms のデメリットとしては、ふりがなをつけることができないため、漢字仮名交じりの文の場合は、後ろに括弧書きで仮名を表示するしかなく、やや見づらくなってしまった点が挙げられる。また、質問と選択肢のフォントや行間、選択肢の並べ方などの調整ができないため、一度に問題全体を眺めることができず、常に下へスクロールしながら課題に取り組まなければならない点では若干不便だったと思われる。

### 4) ツールの運用についての所感

今回の実証授業では、教材スライドの基本構成を教材作成チームの教師間で共有したことで、教材作成が効率的に行えた。また、自分以外のメンバーが作成した教材を使用することもあったが、

授業担当教師は授業前にスライド教材の原本から自分のドライブにコピーを作成し、それを授業がしやすいように加工して使用することができた点も良かったと思う。

また、今回のように複数のツールを Google ドライブ上で運用していく場合、教師は特に共有設定の仕様に慣れておくことが重要であると強く感じた。未公開の教材が見られる状態になっていたり、反対に公開したはずの教材を受講者が開けなかったりといったアクシデントが起きないよう、実証授業期間中はかなり細かく事前チェックを行った。今回は教材作成チームの教師 2 名が授業を行い、1 名が教材の最終チェックと修正、共有の作業を担い、このような役割分担はうまく機能したと思われる。しかし、実際に受講者が共有した教材を開けるかどうかは、Classroom に「教師」として登録しているメンバー教師では確認が難しかった。そのため、念のため本校の教材作成チーム以外の教員に「学生」として登録してもらい、教材が正常に開けるか確認を行ってもらった。このように、学習者の立場で学習教材の動作確認をしておくことは、遠隔授業をうまく進めるために必要な作業であると思われる。

## 2-3-8. 学習の評価と振り返り

授業（同期）の最終日に、学習者は自身の学習の振り返りとして、以下に記入した。

- ・「Can do 評価シート」（スプレッドシート）
- ・「にほんごオンラインコースの学習のふりかえり」（Forms）

### 2-3-8-1. 評価

2-3-3. で述べたように、授業開始日に学習者は「Can do 評価シート」にこれから学習する Can do が現時点（11月8日）でどの程度できているか、自己評価した。それを再度、コース終了時（12月2日）にどの程度できるようになったか、星の数で自己評価してもらった。

| ★ Cando 自分の評価（じぶんのひなまえ）： 学生 A |                  | コース開始日の評価  |  | コース最終日の評価  |      |
|-------------------------------|------------------|--|--|--|------|
| どのくらいできる？<br>（仕舞目）            | No./トピック         | Can do   |  |  |      |
| ★★                            | 1. 病院で           | 病院などで、どこが痛いかなど簡単な質問に対して、短い簡単な言葉で答えることができる。                           | Can answer questions at a hospital like where it hurts and etc using simple words, short phrases.  | เมื่อคุณต้องตอบคำถามในโรงพยาบาลเกี่ยวกับอาการและอื่นๆ โดยใช้คำง่าย หรือประโยคสั้นๆ คุณจะทำได้หรือไม่   | ★★★★ |
| ★★★★                          | 2. 連絡のメールを書こう    | 授業の連絡・欠席をする時に、先生や学校のスタッフにメールで連絡することができる。                             | Can contact your teacher or school staff by email when you are late to or absent from school.  | เมื่อคุณมาสายหรือขาดเรียน คุณจะติดต่อลูกทางโรงเรียนด้วยอีเมลได้หรือไม่   | ★★★★ |
| ★                             | 3. パソコンが動かないです   | 学校の中にある物が使えなくなった時、先生や学校の職員に説明することができる。                               | When something at school is not working, can explain the situation to your teacher or school staff.  | เมื่อบางสิ่งบางอย่างของโรงเรียนไม่ทำงาน คุณจะสามารถอธิบายสถานการณ์ให้กับครูหรือเจ้าหน้าที่โรงเรียนได้หรือไม่   | ★★★★ |
| ★★                            | 4. イベントのチラシを読もう  | イベントの「チラシ」を見て、知りたい情報を得ることができる。<br>②「チラシ」の情報をみて、自分にあったプログラムを選ぶことができる。 | ① Can find information you want on an event flyer.<br>② Can select the program appropriate for you from information on an event flyer.                               | ① เมื่อคุณต้องการข้อมูลเกี่ยวกับกิจกรรมจากใบปลิว คุณจะทำได้หรือไม่<br>② เมื่อคุณต้องการเลือกกิจกรรมที่เหมาะสมกับคุณจากข้อมูลใบปลิว คุณจะทำได้หรือไม่ | ★★★★ |
| ★★★★                          | 5. 友達を誘おう        | 友達を誘うために、イベントの日時を伝え、一緒に行くかどうか、短い簡単な言葉で答えてくれる。誘いに答えたりすることができる。        | To ask a friend to go out together, can tell a friend the date and time of an event using simple phrases. When you are asked to go out, can give the friend a reply. | เมื่อคุณขอให้เพื่อนออกไปเที่ยวด้วยกัน คุณจะสามารถบอกวันและเวลาของงานโดยใช้ประโยคง่ายๆ ได้หรือไม่ และเมื่อคุณถูกเพื่อนชวน คุณจะสามารถตอบได้หรือไม่    | ★★★★ |
| ★                             | 6. 道に迷ったら...     | 道中や店内で目的地への行き方を尋ねて、その答えを理解することができる。                                  | Can ask someone on a street or in a store how to get to your destination, and can understand the answer.   | เมื่อคุณต้องการสอบถามถนนหนทางหรือร้านค้าที่ต้องการไป คุณจะสามารถถามและเข้าใจคำตอบได้หรือไม่  | ★★★★ |
| ★★                            | 7. 大切な物をなくしたら... | 店などで失物として物をしたとき、自分が見つけた物について、説明したり、質問に答えたりすることができる。                  | Can explain or answer questions when you have lost something at somewhere like at a store.   | เมื่อคุณทำของตกหล่นหรือหายในห้าง คุณจะอธิบายหรือตอบคำถามได้หรือไม่   | ★★★★ |
| ★★                            | 8. 東京の交通         | 駅員や売店の人に交通機関を使って目的地まで行く方法を尋ね、その答えを理解することができる。                        | Can ask a station staff or someone nearby how to get to your destination using public transportation, and understand the answer.                                     | เมื่อคุณต้องการใช้วิธีโดยสารสาธารณะเพื่อไปยังจุดหมายปลายทาง คุณจะสามารถสอบถามเจ้าหน้าที่หรือคนขายและเข้าใจในคำตอบได้หรือไม่                          | ★★★★ |
| ★★★★                          | 9. 遅れてすみません      | 待ち合わせの時間に遅れたり、約束を守れなかったりした時、友達や教職員に簡単な言葉で理由を言って、謝ることができる。            | When you are late to an appointment or cannot keep the promise, can give the reasons using simple phrases and apologize to your friends or school staff easily.      | เมื่อคุณไปสายกว่าเวลาที่นัดหมาย หรือทำไม่ได้ตามสัญญา คุณจะสามารถให้เหตุผลโดยใช้ประโยคง่ายๆ และกล่าวขอโทษเพื่อน หรือเจ้าหน้าที่โรงเรียนได้หรือไม่     | ★★★★ |
| ★                             | 10. 観光アドバイス      | 出身地や自分がよく知っている場所の観光について、相手に説明しながら勧めることができる。                          | Can explain and recommend a place of your birth or sightseeing spots you know well to others.  | คุณสามารถแนะนำสถานที่เกิด หรือสถานที่ท่องเที่ยวที่คุณรู้จักให้กับผู้อื่นได้หรือไม่   | ★★★★ |

結果を見ると7名全員が13個のCan do 全てにおいて、コース開始時より自己評価が上がっていた、もしくは同数であった。本人の印象によるものではあるが、全てのCan do が1か月前と同じかできるようになったと全員が感じたということがわかる。その「Can do 評価シート」には教師の評価を記入するシートもあり、教師は授業（同期）で評価（テスト）が終わるごとに合格の印である桜マークを入力していった。教師も全ての学習者が授業（同期）で押さえたポイントがしっかりできて、13個全部のCan do を達成することができたと評価した。

本校日本語科でも、2022年度初級終了テストで会話の試験の1つに、ロールカードを読んでタスクを行うという問題を実施した。2022年9月にあるクラスで実施したテストでは、①試着して買うことができる ②落とした物について説明したり質問に答えたりすることができる ③電話でレストランの予約ができる ④おすすめの観光地をアドバイスできる ⑤時間に遅れた時、理由を言って謝ることができる の中から1つ選び、12点満点で評価した。結果は受験した12名中10名が12点、2名が11点であった。日本語科では『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ』という教科書を使い、語彙や文法などの学習を進めながら、それらを使って自分のことが表現できるようになるため、作文や会話、発表など様々な教育活動を対面授業で行っている。このテストのようなタスク達成型の練習も、教科書の進度に合わせて何度も行っており、初級終了テストの前には復習もしている。今回のオンライン授業と本校日本語科における対面授業とでは、学習者も学習期間も学習のアプローチも違うので簡単に比較することはできないが、対面授業で学習した学生と、オンラインで学習した実証授業の受講者は、ほぼ難易度が同じA2レベルのCan do をどちらも達成できたと評価されている。オンラインであっても、対面と同程度にCan do 達成のためのポイントや表現を身につけ、運用力をつけることができると言えるのではないだろうか。話すだけでなく画面越しに、書類を渡す動作や、「これぐらいの大きさ」と落とし物を身振り手振りで説明する学習者の姿を見て、「行動ができるようになる」ことがオンラインでも実現できるのだと実感した。

#### 2-3-8-2. 振り返り

授業の最終日にFormsで行った「にほんごオンラインコースの学習のふりかえり」は、本コースを評価するものではなく、学習者自身がこの1か月の学習を振り返り、今後の日本語学習の目標を立てるためのものである。自分の授業や課題への取り組み方、コース開始時よりできるようになったと思う技能、コースへの感想やこれからの学習の目標などを聞いた。学習の一環として行ったため、翻訳はつけず、回答も日本語のみとした。以下が質問の一覧である。

「にほんごオンラインコースの学習のふりかえり」質問一覧（ふりがなをつけて Forms で配布）

I. 授業や課題について

（1 できなかった～4 できた から1つ選択）

1. 締め切りまでに課題が提出できましたか。
2. 授業の時、集中して練習できましたか。
3. 課題にわからないところがあったら、自分で調べたり、誰かに聞いたりして解決できましたか。
4. 授業の目標を意識して勉強できましたか。
5. 評価（テスト）のために、しっかり復習できましたか。
6. 発表のために、しっかり準備できましたか。

II. コースで勉強する前より、どのぐらいできるようになりましたか。

（14 以外 1 できるようにならなかった～4 できるようになった から1つ選択）

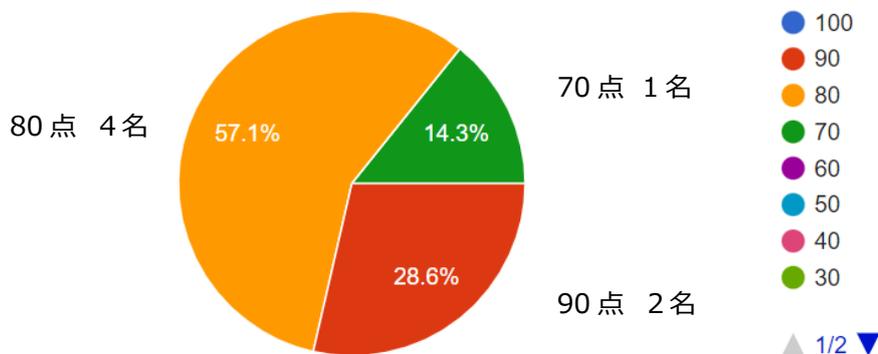
7. 日本語で話すこと
8. 日本語で発表すること
9. スライドを作ること
10. 日本語を聞くこと
11. 日本語を読むこと
12. 日本語で作文や発表原稿を書くこと
13. 日本語でメールやチャット、コメントを書くこと
14. その他に、できるようになった、上手になったと思うことを書いてください。（自由記述）

III. （15 以外自由記述）

15. このコースで、自分の成績を 100 点満点でつけたら、何点ですか。（100 点～0 点から1つ選択）
16. 上の点数の理由として、がんばったこと、もっとがんばればよかったと思うことなど具体的に書いてください。
17. このコースで学んだことで、これからの生活や学習にいかせそうなことは何ですか。
18. あなたのこれからの日本語の目標は何ですか。
19. その他、コースを振り返って思うことを自由に書いてください。

この「にほんごオンラインコースの学習のふりかえり」は 7 名全員から回答を得た。その中からいくつかの回答を紹介する。

質問 15 このコースで、自分の成績を 100 点満点でつけたら、何点ですか。



全員が 70 点以上と評価しており、90 点も 2 名いた。90 点の学習者のうち一人は 4 年生で、インターンシップもあり忙しい中参加していた受講者である。もう一人は唯一の 1 年生で、大学の課題もたくさんある中、先輩たちと学び、大変な部分も多かったのかもしれない。そのような状況下で、できる限りの努力をしたことを本人も評価したのではないかと思う。受講者の授業（同期）への出席率は、7 名のうち 4 名が体調不良や大学の授業、インターンシップへの参加で 1 日ずつ欠席があったが、他の 3 名は全日出席であった。全員課題の提出もよく、熱心に学習に取り組んでいたと言える。

質問 16 点数の理由として、頑張ったこと、もっと頑張ればよかったと思うことなど具体的に書いてください。（以下青字は回答の抜粋、原文まま）

- ・一生懸命復習すると思います。だから、80 点になります。でも、100 点になりたくてもっと復習します。
- ・私は cando 試験を受けるたびに毎回会話を暗記するようにしました。先生に教えてもらったウェブサイトと呼んで、声優さんの会話を聞いて、日本語の発音や聞き取りの練習をしました。でも、もっといいプレゼンテーションをしたいです。
- ・今日までコースの予習と復習と課題と発表はいつも頑張っていたと思います。後 10 点は言いたいことは時々はっきり言えないんですが、その分はもっと頑張って伝えれば良かったと思います。 など

言葉や会話を覚えることを頑張ったという回答が複数あった。教師は、Can do が行動として達成できればいいので、会話を丸暗記するよにという指導はしなかったが、学習者としては、会話をしっかり覚えなくてはいけないと感じたようだ。目標の説明時やロールプレイの練習、評価（テスト）の際に、暗記したものをその通り正確に発話することが目標なのではなく、実際にそういう場面に遭遇した

際、行動できることが大切であることをしっかり伝え、それが評価できる方法や練習を考えることが今後の課題であると感じた。

**質問 17** このコースで学んだことで、これからの生活や学習にいかせそうなことはありますか。

- ・このコースは私に日本語を話す勇気を与えてくれました。私の日本語のリスニングも上達したと思います。そして、この後、勇気を出してもっと発表しようと思います。
- ・大学の勉強に活かします。話し方も日本文化も将来、日本で仕事をするときに役立つと思います。
- ・このコースで学んだことは日本に生活できたことと新しい友達を作ることです。それに、自分が日本語がもっと上手になりたいことです。これから、日本人のようにペラペラに話せるようになりたいです。将来日本に旅行すること、留学すること、仕事に生かすと思います。 など

学習者は全員タイにいる大学生であり、いますぐ日本語を使う状況にない人に日本での留学生活に必要な Can do の学習をさせることについて、教師は心配していた部分もあったが、皆学んだことが今後の生活や学習に生かせそうだと感じたようで安心した。また、回答の中には日本で仕事をする時や将来留学する時に役立つという答えがあった。このコースを通じて日本への留学や就職に興味を持ったようだ。

**質問 18** あなたのこれからの日本語学習の目標は何ですか。

- ・来年インターンシップした後で、日本に留学したいです。そして、N2 に合格したくて、日本語の関係がある仕事がしたいです。
- ・日本で交換留学生になりたいです。そしていつか推し様に会いにライブに行きたいです！笑
- ・JLPTN2 に合格したくて日本に留学するつもりです！
- ・翻訳者を目指すつもりです。そして日本人と並べられる会話スキルをもっと練習します。 など

それぞれ目標を持つことができていた。ここでも日本への留学を希望するという声が複数あった。日本での留学生活で遭遇するであろう Can do の学習を通して、日本での生活がイメージできたり、日本語で行動できる自信がついたりしたのかもしれない。

**質問 19** その他、コースを振り返って思うことを自由に書いてください。

- ・このコースはとても良いコースだと思います。このコースに申し込んだことを後悔したことは一度もありません。これにより、自由な時間を有効に活用できて、このコースは私に日本語を話す勇気を与えてく

れました。とても楽しかったです。二人の先生は私に役立つ知識をたくさん教えてくれました。本当にありがとうございました。

- ・このコースに勉強できて、本当に良かったです。白岩先生と秋村先生はとても優しいし、教え方も楽しいし、私がいい間違いしても、先生は耳を傾けました。いろいろな状態の会話を話せて、生活に役立つと思います。
- ・本当に楽しかったです。このコースから沢山のものを得ました。勉強以上だと思って、沢山の知識と良い思い出を得ることができました。このコースをやってくれた2人の先生に本当に感謝します。
- ・たくさん場面の会話を学んで嬉しいです。これから先、学ぶことを利用してもっと日本語を上手になろうと思います。 など

全員から肯定的な回答を得た。その中に、「自由な時間を活用できる」という意見があった。休暇中とはいえ、忙しい大学生にとって、自分の生活や環境に応じて自習（非同期）時間を決めることができたことはよかったようだ。また、「楽しかった」という声が多くあり、「良い思い出」になったという声もあった。質問17の回答に「新しい友達を作ること」ができたという声もあり、最初は同じ学年の人しか知らなかった学習者同士も、徐々に仲が良くなり、いい雰囲気練習ができていたようだ。授業（同期）や課題、特に発表を通して、互いの個性がわかり、認め合う雰囲気ができていったように思う。発表のトピックを選ぶ際、学習者の個性が発揮でき、発表するほうも聞くほうも楽しいものを選ぶことがこうした雰囲気づくりに大きく影響すると感じた。教師も課題へのコメントとして、チャットで励ましや助言をできる限り与えるよう努めた。7名という少人数だったこともあり、教師と学習者とのコミュニケーションも十分とれたと思う。

「このコースは日本語を話す勇気を与えてくれました」という言葉があった。この学習者のように海外の大学などで日本語を専攻し、たくさん勉強していても日本語を使う機会が限られていて、日本語を使うことに勇気や自信が持てずにいる学習者は多いのではないだろうか。こういった海外にいる日本語学習者にとってオンライン授業は、日本と繋がることができ、日本人と直接日本語でやりとりする機会になるので、今まで学んできたことを試すことができ、それが通用すれば自信につながるという効果があると思われる。また、今後の日本語学習に対しても新たな目標を見つけ、学習意欲が高まったという学習者が多かったので、その学習者がオンラインコース終了後、在籍する学校やクラスにいい影響を与えるのではないかと期待する。

今後、海外の大学や高校などの教育機関と協力すれば、学習者のみならず日本と海外の双方の教育機関にとっても有益なコースになるのではないかと可能性を感じた。今回 SSRU の先生がコース初日と後半の授業を見学して下さったが、先生も学生の成長に驚き、喜んでおられた。今回のコースのように教科書を使わず、文型積み上げ型の授業ではない場合、双方の学習の重なりを気に

することなく学習者の日本語力を伸ばすことができる。海外の教育機関と連携し、運用力を高めるためのオリジナル教材によるオンラインコースを提供することは、需要も効果も期待できるのではないだろうか。

## 2-4. コース評価と分析

### 2-4-1. 「にほんご チェック！」受講前後の比較

#### 2-4-1-1. 調査の背景・目的

2-3-5. で述べたように、実証授業の受講前に、受講者が自身の日本語能力についてどのように自己評価をしているのかを知るため、文化庁国語課が提供している日本語能力自己評価ツール「にほんご チェック！」で自分の日本語能力を評価してもらった。そして、実証授業終了後にもう一度同じように評価してもらい、どのような変化があったかを調べた。実証授業では、「行動できること」を目標にしていたため、文法や語彙力を測るテストではなく、この評価ツールを選択した。

#### 2-4-1-2. 調査概要

対 象：実証授業を受講した学習者 7 人

回 収 数：7 件

チェック項目：「話す（やりとり）」「話す（発表する）」「聞く」「読む」「書く」の 5 項目

#### 2-4-1-3. 調査結果及び考察

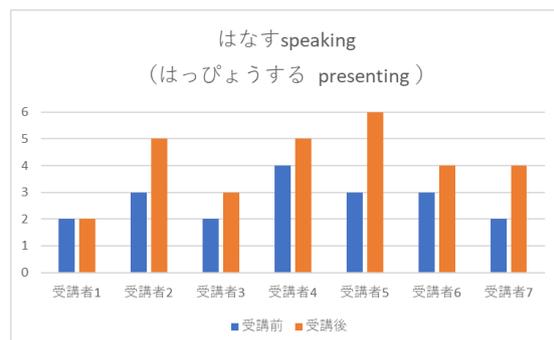
調査の結果について、以下の 1) ～ 4) の傾向が見られた。なお、グラフの縦軸は便宜上、A1 から C2 を 1 から 6 の数字で示している。

1) すべての項目で受講前と同じまたは受講前より高い自己評価をしている

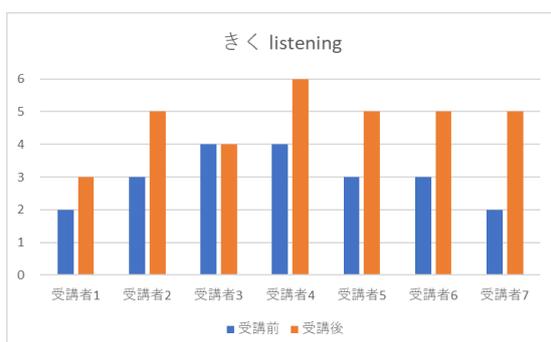
受講後のチェックでは、受講前より低い評価をした人はいなかった。また、受講者は少なくとも一つ以上の項目で受講前より高い評価をしており、実証授業を通じて日本語力が向上したと感じていることがわかった。

2) 「話す」はほぼすべての受講者が受講前より高い自己評価をしている

「話す（やりとり）」はすべての受講者の自己評価が受講前より高くなっている。また、「話す（発表する）」も、7 人中 6 人が受講前より高い評価をしていた。

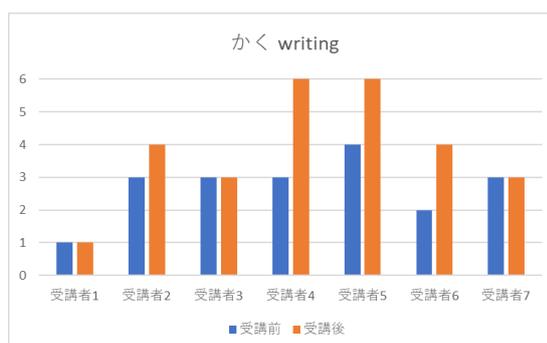
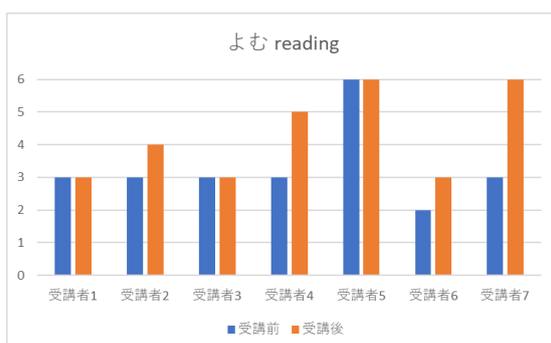


### 3) 「聞く」は、5人が受講前より2段階高い自己評価をしている



「聞く」は7人中5人の評価が受講前より2段階高くなっており、この項目はC1以上の評価をした人が最も多い項目であった。受講者がより伸びを感じられた項目だったのではないかと考えられる。

### 4) 「読む」「書く」は受講前後で評価が変わらない人が多い



「読む」「書く」はどちらも3人が受講前と同じで、4人が受講前より高く評価している。今回の実証授業では「読む」「書く」のCan doは「欠席のメールを書こう」「イベントのチラシを読もう」の一つずつしかなかったため、他の項目に比べ伸びを感じた人は少なかったものと考えられる。しかし、教材中の文を読むことや、発表の原稿やコメントを入力することを通じて、これらの力もついたと感じた受講者もいたのではないかとと思われる。

このように技能別に見ると、学習者の自己評価は今回の実証授業で設定した目標におおむね沿ったものになっていると言える。本調査の結果は、あくまで受講者の自己評価であり、客観的なデータとは言えないかもしれないが、日本語を使ってできることが増え、日本語力が向上したことをある程度反映していると言えるのではないだろうか。

## 2-4-2. コース評価「オンライン授業についてのアンケート」の調査と分析

### 2-4-2-1. 調査の背景・目的

本調査は、今回の受講者に対して、実証授業に対する学生の評価を聞き、今後の改善に役立てるため、実証授業終了後に行った。参加した受講者全員から回答を得ることができた。

### 2-4-2-2. 調査の概要

対 象：実証授業を受講した学習者 7 人

回 収 数：7 件

調査方法：Google Forms のアンケートフォームへの入力

実施期間：2022 年 12 月

各質問内容については、参考資料『「にほんごオンラインコース」についてのアンケート』質問一覧を参照いただきたい。

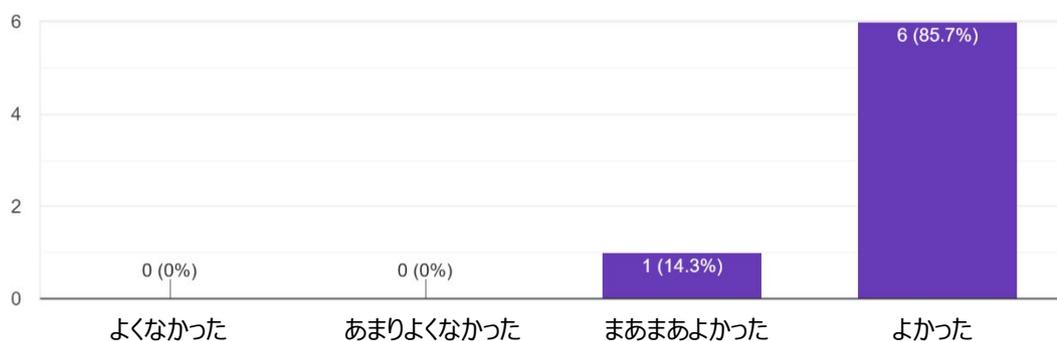
### 2-4-2-3. 調査結果の概要と考察

アンケートは「教材について」「Zoom の授業と課題のバランスや問題点について」「教師やクラスについて」「全体的なこと」の 4 つのセクションを設け、タイ語の翻訳や教材のスクリーンショットなどを入れ、タイ語での回答も可とするなど、できるだけ受講者が回答しやすいよう配慮して実施した。ここではセクションごとに回答結果を紹介し、考察する。なお、回答の集計結果の詳細は要約し、グラフは一部抜粋して掲載する。

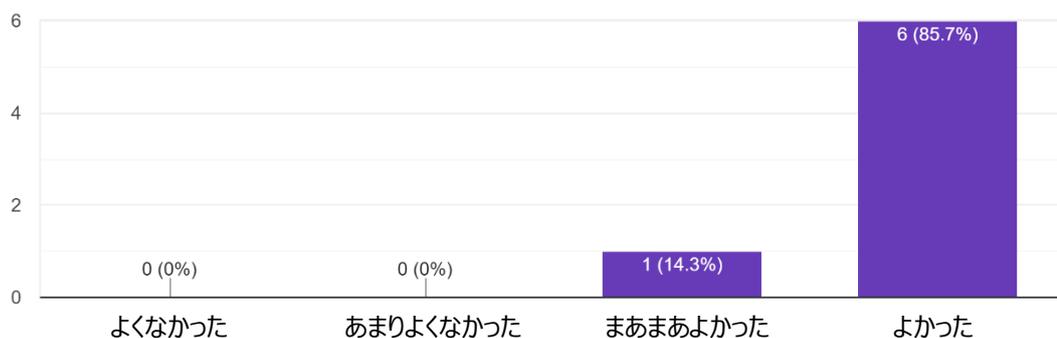
#### I. 教材について

今回使用した教材は、Google Classroom などのオンラインサービスを利用して作成・配布した。そこで、まずそれらの使いやすさや役に立ったかどうかを聞いた。Classroom、Google スライドは「使いやすかった」「役に立った」という回答が大半を占めていた。（質問 I -1-1,2、I -2-1,2）

**質問 I -1-1** Google クラウドを使って授業をしました。使いやすさはどうでしたか。

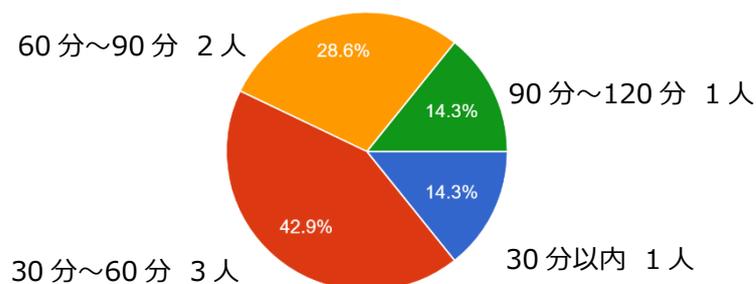


**質問 I -2-1** Google スライドを使って教材を作りました。教材(字の大きさ、デザインなど)はどうでしたか。



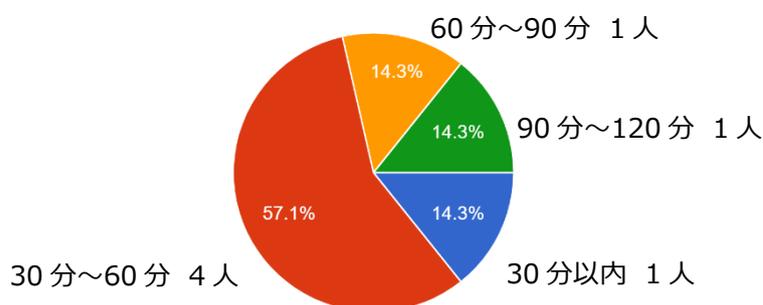
次に、予習については、ほぼ全員が教師の示した順番に従って予習を行い、おおむね 30 分から 90 分程度かかっていたことがわかった。予習教材についても「使いやすかった」「役に立った」という回答が多かった。(質問 I -3-1~5)

**質問 I -3-5** 予習の課題をするのにだいたい何分ぐらいかかりましたか。



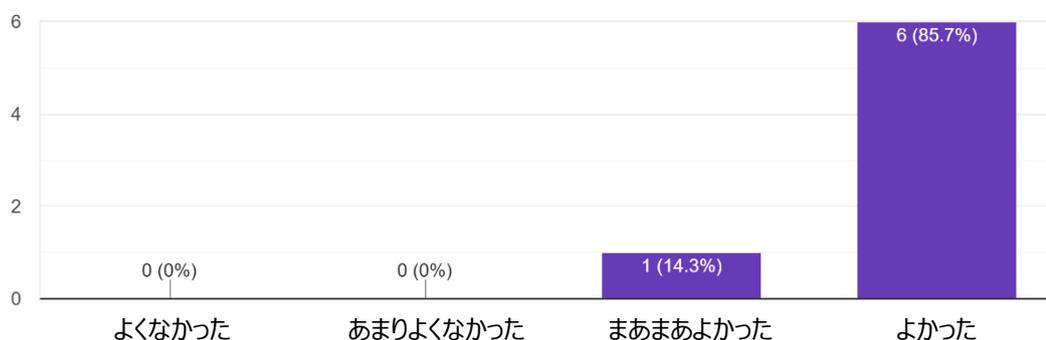
また、復習については、30分から60分以上かけたという人が多く、復習教材も使いやすく役に立ったという回答が多かった。ただし、「文法のビデオ」については、1人だけが「あまり使いやすくなかった」「あまり役に立たなかった」という回答もあった。また、復習の際に最も多く使われた教材は「Googleスライド」と「文法の練習」で、次いで「ロールプレイのビデオ」「文法のビデオ」と続いた。（質問 I -4-1～4）

**質問 I -4-4** 復習の課題をするのにだいたい何分ぐらいかかりましたか。



最後に、評価については、教師と一人ずつ会話するテストと発表の記録（ポートフォリオ）によって、全員が自分の日本語の上達を感じられたようだ。また、1つの Can do について、「予習の課題→Zoomの授業→復習の課題→評価（テスト）」の順番で勉強することに対しても、全員が「よかった」または「まあまあよかった」と感じていることがわかった。（質問 I -5-1～3）

**質問 I -5-2** 1つの Cando について、「予習の課題→zoomの授業→復習の課題→評価（テスト）」の順番で勉強しました。それはどうでしたか。



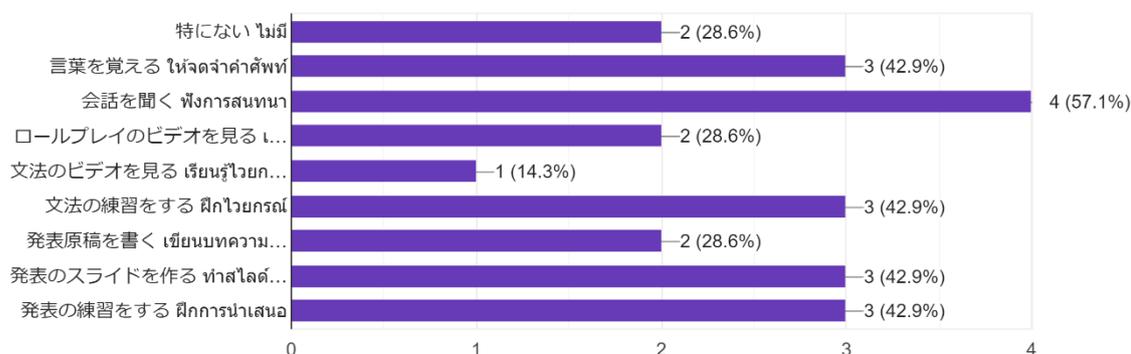
## II. Zoom の授業と課題のバランスや問題点について

同期で行った Zoom の授業と非同期で課した課題のバランスについて聞いた。まず、1 日に Zoom での授業が 3 時間、課題が 2 時間というカリキュラムのバランスに対しては、「よかった」4 人、「まあまあよかった」が 3 人でおおむね高い評価だった（質問 II -1）。

また、4 週間で 13 個の Can do が練習できるスケジュール、そして毎日の課題の量については全員が「ちょうどよかった」と回答している（質問 II -2,3）。

次に、課題として非同期で行ったものの中で、Zoom の授業（同期）で教師と一緒に取り組んだほうがよいと思うものについて選択肢の中から自由に選んでもらった（質問 II -6）。その結果、「会話を聞く」が 4 人で最も多く、次いで「言葉を覚える」「文法の練習をする」「発表のスライドを作る」「発表の練習をする」が 3 人ずつだった。一方、「ロールプレイのビデオを見る」「発表の原稿を書く」は 2 人、「文法のビデオを見る」は 1 人でやや少なかった。「会話を聞く」が他より多かったのはやや意外だったが、教師と内容を確認しながら聞きたかった受講者が多かったのかもしれない。その他の項目についても、同期と非同期のどちらで実施したほうが効果的なのか、今後も考えていきたい。

**質問 II -6** 課題の中で、Zoom の授業で先生といっしょにやったほうがよいと思うものはありますか。



最後に、Zoom の授業の際と課題に取り組む際に困ったことや大変だったことは何か、それにどのように対処したかという自由記述の質問には、下のような回答があった（以下青字は回答の抜粋、一部翻訳）。（質問 II -4,5）

**質問 II -4** Zoom の授業の時、困ったことや大変だったことはありましたか。その時どうしましたか。

- ・先生の言うことがわからないとき、先生にもう一度言ってくれるようお願いした。
- ・インターネットの調子が悪くなったとき、良くなるまで待った。他のインターネットを使った。
- ・時折、集中力がなくなったが、なるべく早く集中力が戻るように努力した。

質問Ⅱ-5 課題をする時、困ったことや大変だったことはありましたか。その時どうしましたか。

- ・場合によっては、iPad より PC で行う方が便利だった。私は PC がなかったのでとても大変だった。
- ・時折他のことに気を取られ、自分が思ったほど達成できないこともあった。終わり次第、勉強にすぐに戻ったが。
- ・会話の宿題は聞き取れなかったこともあったが、その時はできるまでやった。

どちらの場面にも「集中力がなくなる」「他のことに気を取られる」といった回答が見られた。オンライン授業は対面授業と違い、デバイス上で様々な情報が通知されたり、興味を引く情報についてアクセスしてしまったりするという状況が発生しやすい。教師やクラスメートの目が届く範囲も限られているため、集中力の維持は時に困難なことがあるだろう。自習（非同期）の場合は、さらに自律的に学ぶ力が求められる。オンラインという特性に配慮した授業や教材の改善について、今後も考えていきたい。

### Ⅲ. 教師やクラスについて

このセクションでは、教師の授業の進め方やコミュニケーション、クラスの雰囲気について聞いた。まず、日本語だけの説明や練習だったが、問題なく学習できたかという質問に対しては、「そう思う」6人、「そう思わない」1人という回答だった。教師とのコミュニケーションが十分とれたかについては、全員が「そう思う」または「まあまあそう思う」と答えていた。そして、教師からのサポートが十分あったかと、クラスは勉強しやすい雰囲気だったかに対しては、全員が「そう思う」と回答していた。（質問Ⅲ-1～4）

最後に、このコースのメリットは何だと思うか選択肢の中から 3 つ選んでもらったところ、下のような結果になった（質問Ⅲ-6）。

**質問Ⅲ-6** このコースのメリットは何だと思いますか。次の中から特にそうだと思うものを 3 つ選んでください。



海外で学ぶ学習者にとって、日本にいるのと同じように「日本人の教師と話せること」はコースの魅力になりうると感じた。「日本人の教師と話せる」ことに次いで、「日本語を使って行動できるようになる」が 2 番目に多く選ばれたのは、カリキュラムの目標がきちんと受講者に理解されていたことの表れだと言えるのではないかと。また、「自分の日本語に自信が持てる」という回答も、今後の日本語を使って行動することにつながるものであるため、このような回答がより多くなるような授業を設計することが重要だと考える。

#### IV. 全体的なこと

このセクションでは、今回のコース全体の感想を聞いた。全体的な難しさについては、「ちょうどよかった」が 5 人、「もっと難しいほうがよかった」が 2 人だった。また、コース全体の満足度を百分率で尋ねたところ、「100%」4 人、「90%」2 人、「80%」1 人とおおむね高い評価だった。次に、もし同じような内容のコースに参加するなら、どのぐらいの長さのコースがいいと思うかという質問には、「1 か月」が 4 人で最も多く、次に「2 か月」2 人、「1 年」1 人と続いた。さらに、今回のコースに参加して、自律的に学習する習慣がついたと思うかという問いには、全員が「そう思う」と回答していた。（質問Ⅳ-1,2,5,6）

続いて、コース全体を通して、良かったところと改善したほうが良いところについて自由に記述してもらったので、紹介する（質問Ⅳ-3,4）。

**質問Ⅳ-3** コース全体を通して、良かったところについて自由に書いてください。

- ・先生は一生懸命説明してくれ、励ましてくれた。おかげで日本語を話す自信をもっと持つことができた。
- ・授業中の学習時間と Q&A 時間、練習問題とテストの量はバランスが良かった。多過ぎず、少な過ぎず。勉強を楽しめた。
- ・すごく楽しかったです。
- ・楽しくて、いい経験です。そして 練習する日本人を話せます。
- ・先生の教え方は外国人にとって、わかりやすく、とても面白いです。
- ・先生はとても優しく生徒のことをちゃんと聞いてくれました。それに、いつも笑顔してくれて本当に楽しく勉強できました。コースの内容は日本に旅行や仕事に役立つと思います。

**質問Ⅳ-4** コース全体を通して、改善したほうが良いところについて自由に書いてください。

- ・プレゼンテーションの時間をもっと 3 から 6 分くらいほしかった。

良かった点については、「楽しく日本語を学ぶことができた」という答えが多く、「日本語を話す自信がついた」「日本への旅行や仕事に役に立つ」といった回答も見られた。一方、改善したほうが良い点は一点のみだったが、プレゼンテーションの適切な時間の長さについては今後も検討していきたい。

次に、オンラインで授業を受ける時、大切なことは何だと思うか、どうやってモチベーションを維持したかについて自由に回答してもらった（質問Ⅳ-7）。

**質問Ⅳ-7** オンラインで授業を受ける時、大切なことは何だと思いますか。どうやってモチベーションを維持しましたか。

- ・将来の目標を考える。例えば、字幕を読まないでアニメを観たら楽しいな、と。
- ・勉強する理由は達成したい目標とゴールがあるから。いつもそれが励みになった。
- ・練習と復習。日本に行く時の生活に役立つと思います。
- ・夢や目標です。
- ・一生懸命日本語を復習すると思います。会話を練習します。例えば、先生に話す。
- ・集中が一番大切だと思います。
- ・大切なことは日本語で話す勇気です。タイにはあまり日本語であまり話さないなので、チャンスが

あつたら掴む勇氣も必要です。私のモチベーションは日本の歌、アニメ、声優さんをよく見てテンションが上がります！

最後に、今回のコースについて思うことを自由に書いてもらった（質問IV-8）。

**質問IV-8** その他、今回のコースについて何かあれば自由に書いてください。

・大変良いコースだったと思う。日本語に興味を持って学習をしている人にとって、とても役立つと思う。

以上のように、受講者へのアンケートから、今回の実証授業に対して肯定的な評価が多いことがわかった。受講者の同期の授業と非同期での課題への取り組み方や、要望、課題を踏まえつつ、今後より良いオンラインコースをデザインし、モデルの構築を実現したい。

## 2-5. 来年度に向けての課題

今年度は、目標の再設定からコースデザインと教材の開発を重点的に行い、実証授業ではその運用を一通り行うことができた。実証授業を通して、同期・非同期の学習サイクルと内容を効果的なものにデザインしオンラインツールやサービスの特性を生かして活用することにより、オンライン環境における学習がおおむね有効に機能する感触を得た。また、昨年度とったアンケートから浮き彫りになったオンライン授業における問題点も改善できたものが多かったのではないだろうか。来年度は今回の経験を生かしたうえで、より効果的な先端技術の活用、すなわち、オンラインツールを活用するからこそ可能になる効果的な教育活動のモデルを構築したい。対面授業と同程度の教育効果を目指すことと、対面授業では得られない学習体験が提供できないかを検証したい。

また、行動中心アプローチや ID の考え方を取り入れた教材開発を行い、Can do を達成することを目指したコースデザインをしたが、モデル会話を覚えることや、紹介した表現が使えないといけないと学習者に映るような教材や授業になっていなかったかを振り返る必要がある。「行動ができるようになった」ということを評価するとはどういうことなのか、具体的にどのような指導方略や練習、課題を準備すべきなのかなどを再検討し、コースデザインの改善につなげたい。

## (参考資料)「オンライン授業についてのアンケート」質問一覧

- Q1. 名前を書いてください。
- Q2. 今、何組で勉強していますか。
- Q3. 4月はどのクラスで勉強しましたか

### I. 4月から6月のことについて

- Q1. 【毎日2時間のZoomの授業+3時間自分で勉強する】というスケジュールでした。このスケジュールは満足でしたか。
- Q1-1. (Q1について) どうして満足でしたか。不満でしたか。
- Q2. 4月から6月までの授業では、授業の前に動画を見る宿題がありました。覚えていますか。
  - 動画について覚えている人に聞きます —
  - Q3-1. 動画をよく使いましたか。1本の動画を何回ぐらい見ましたか。
  - Q3-2. 動画を見る時は、何で見ましたか。
  - Q3-3. 動画はだいたい7分から10分ぐらいです。1日に何本ぐらいなら、見られますか。
  - Q3-4. 動画でよく勉強できたことは何ですか。(いくつ選んでもいいです)
  - Q3-5. 動画を使って、どのように勉強しましたか。 [見ながら、ノートや教科書にメモをした。]
  - Q3-5. 動画を使って、どのように勉強しましたか。 [見ながら、いっしょに言う練習をした。]
  - Q3-5. 動画を使って、どのように勉強しましたか。 [見た後で、動画の中の「宿題」をした。]
  - Q3-5. 動画を使って、どのように勉強しましたか。 [見た後で、自分で言う練習をしたり、文を作ったりした。]
  - Q3-5. 動画を使って、どのように勉強しましたか。 [見ながら知らない言葉を調べた]
  - Q3-5. 動画を使って、どのように勉強しましたか。 [何度も聞いた]
  - Q3-6. 動画は役に立ちましたか。
  - 動画について覚えていない人に聞きます —
  - Q3-1. 授業の前の日に、次の日授業で勉強する文型の動画があったら、見てみたいですか。
  - Q3-3. 動画はだいたい7分から10分です。もし「動画を見て予習をしてきてください」という宿題があったら、1日に何本ぐらい見られますか。
- Q4. 4月から6月ぐらいの授業では、毎日2時間のZoomの授業がありました。覚えていますか。

- Q4-1. (授業について覚えている人に聞きます) 授業でよく勉強／練習できたことは何ですか。  
(いくつ選んでもいいです)
- Q4-2. 授業でもっと勉強／練習したかったことは何ですか。(いくつ選んでもいいです)
- Q4-3. 4月～6月のZoomの授業は日本語を勉強する時に役に立ちましたか。

## II. 1年間オンライン授業を受けて

- Q1. 1年間勉強して、自分の日本語をどう思いますか。
- Q2. 何が上手になりましたか。(いくつ選んでもいいです)
- Q3. 何があまり上手になりませんでしたか。(いくつ選んでもいいです)
- Q4. 学校の授業以外に自分で何か日本語の勉強をしましたか。何をしましたか。
- Q5. 理想的(りそうてき)なオンライン授業の時間を教えてください。
- Q6. オンライン授業で大変だったことは何ですか。(いくつ選んでもいいです)
- Q7. 1年間ずっと海外から授業に参加して、精神的(せいしんてき)に大変だったのはいつ頃ですか。どうしてですか。
- Q7-1. (Q7について)精神的(せいしんてき)に大変だった時、どうしましたか。
- Q8. 1年間ずっとオンラインで授業を続けることができました。どのようにモチベーション(motivation)を維持(いじ: keep)しましたか。
- Q9. 先生のサポートでうれしかったこと、役に立ったことがあれば書いてください
- Q10. もっとしてほしかったサポートがあれば書いてください。
- Q11. オンライン授業以外でクラスメートとコミュニケーションを取ることはありましたか。
- Q11-1. (Q11について)どんな時にクラスメートとコミュニケーションをとっていましたか。
- Q12. その他、オンライン授業全体について意見や感想があれば書いてください。

## (参考資料)『にほんごオンラインコース』についてのアンケート」質問一覧

### I. 教材について

- 1-1 Google クラスルームを使って授業をしました。使いやすさはどうでしたか。
- 1-2 直したほうが良いところがあれば教えてください。
- 2-1 Google スライドを使って教材を作りました。教材（字の大きさ、デザインなど）はどうか。
- 2-2 直したほうが良いところがあれば教えてください。
- 3-1 予習の課題について聞きます。  
次の教材の使いやすさはどうでしたか。
  - ・Google スライド
  - ・Google Forms「言葉を覚えましょう」
  - ・Google Forms「会話を聞きましょう」
- 3-2 役に立ちましたか。
  - ・Google スライド
  - ・Google Forms「言葉を覚えましょう」
  - ・Google Forms「会話を聞きましょう」
- 3-3 Google スライド「言葉を覚えましょう」→Google Forms「言葉を覚えましょう」  
→Google Forms「会話を聞きましょう」→PDF「会話のスクリプト」この順番で予習をしましたか。
- 3-4 しなかった人はどうしてですか。
- 3-5 予習の課題をするのにだいたい何分ぐらいかかりましたか。
- 4-1 復習の課題について聞きます。  
次の教材の使いやすさはどうでしたか。
  - ・Google スライド
  - ・ロールプレイのビデオ
  - ・文法のビデオ
  - ・文法の練習
- 4-2 役に立ちましたか。
  - ・Google スライド
  - ・ロールプレイのビデオ
  - ・文法のビデオ

- ・文法の練習
- 4-3 どのぐらい使いましたか。
  - ・Google スライド
  - ・ロールプレイのビデオ
  - ・文法のビデオ
  - ・文法の練習
- 4-4 復習の課題をするのにだいたい何分ぐらいかかりましたか。
- 5-1 評価（テスト）について質問します。  
先生と一人ずつ話して、評価（テスト）しました。その評価（テスト）でどのぐらいできるようになったか実感できましたか。
- 5-2 1つの Can do について、「予習の課題→Zoom の授業→復習の課題→評価（テスト）」の順番で勉強しました。それはどうでしたか。
- 5-3 「発表の記録（ポートフォリオ）」を見て、どのぐらいできるようになったか実感できましたか。

## II. Zoom の授業と課題のバランスや問題点について

- 1 Zoom の授業時間（3 時間）、課題（2 時間）を想定してカリキュラムを作成しましたが、そのバランスはどうでしたか。
- 2 4 週間で 13 個の Can do が練習できるようにスケジュールを作成しました。そのスピードはどうでしたか。
- 3 毎日課題がありました。課題の量はどうでしたか。
- 4 Zoom の授業の時、困ったことや大変だったことはありましたか。その時どうしましたか。
- 5 課題をする時、困ったことや大変だったことはありましたか。その時どうしましたか。
- 6 課題の中で、Zoom の授業で先生といっしょにやったほうが良いと思うものはありますか。

## III. 教師やクラスについて

- 1 日本語だけで説明や練習をしましたが、問題なく学習できましたか。
- 2 教師とのコミュニケーションは十分とれましたか。
- 3 教師からのサポートが十分あったと思いますか。
- 4 クラスは勉強しやすい雰囲気でしたか。
- 5 その他教師にサポートしてほしいことがあれば、書いてください。
- 6 このコースのメリットは何だと思いますか。次の中から特にそうだと思うものを 3 つ選んでください。

選択肢：日本人の教師と話せる、日本に行かなくても勉強できる、日本で留学する時に役に立つ、日本語を使って行動ができるようになる、総合的な日本語力が身につく、日本語で考えるようになる、自分の日本語に自信が持てる、日本や日本人のことがわかる、日本への留学に興味を持つようになる、目標がはっきりしている、言葉や表現の知識が増える、文法が強化される

#### IV. 全体的なこと

- 1 難しさはどうか。
- 2 コース全体を通して、満足度は何%ぐらいですか。
- 3 コース全体を通して、良かったところについて自由に書いてください。
- 4 コース全体を通して、改善したほうがいいところについて自由に書いてください。
- 5 もし同じような内容のコースに参加するなら、どのぐらいの長さのコースがいいと思いますか。
- 6 今回のコースに参加して、自律的に学習する習慣がついたと思いますか。
- 7 オンラインで授業を受ける時、大切なことは何だと思いますか。どうやってモチベーションを維持しましたか。
- 8 その他、今回のコースについて何かあれば自由に書いてください。

### 3. 今年度の活動の総括と今後の課題

今年度の最大のミッションは実証授業を実施することであったが、無事に終えることができ、安堵している。実証授業の実施は、タイの SSRU の協力なしにはあり得なかった。Japanese Program 専攻のカチャパット先生とパイリン先生にここで改めてお礼を申し上げたい。また、両先生と私たち委員とのパイプ役を担ってくれた文化学園バンコク事務所のスタティップ所長にも感謝の意を表したい。ありがとうございました。

さて、今年度を 4 月から振り返ってみると、この実証授業にむけて遠隔授業モデルの枠組みを整えることから始めていた。まず、前年度、本校の日本語科で 1 年間海外で学習することになった学生を対象に行った遠隔授業に関するアンケート調査の分析からスタートした。それと並行して、前年度の実行委員会で実行委員から出された意見を振り返り、遠隔授業モデルの対象学習者、指導法、期間などを固めていった。その結果、これまで本科で行ってきた文型積み上げ型の指導法から一線を画し、「日本語教育の参照枠」と行動中心アプローチを取り入れた新しい指導法によるモデル構築を目指すこととした。この決断は私たちにとって新しいものを学びながら作り込むという大きい挑戦であったが、実行委員からの助言もあって、なんとか形にすることができた。そして、学習者にも恵まれ、実証授業を予定通り実施することができた。海外で学習を続けている学習者には A2 レベルまで学習を進めたものの、定着度や運用力が不足しているというこれまでの経験を踏まえ、そこをターゲットに据えたことが行動中心アプローチによる指導の効果とも相まって、実証授業を成功裏に終えることにつながったと言える。

とはいうものの、前章までで書かれているように、今回のモデルにも課題は多い。来年度は、この課題をひとつずつ解決していく必要がある。そのうえで、このモデルをいかに横展開していくかという新たなミッションに立ち向かっていかなければならない。実証授業の様子を確認した実行委員からは、トピックによってはこのレベルでは少し難しいのではないかと、同じような教材を作ろうとすると難しいと感じる教師もいるのではないかといった意見を得ることができた。私たち以外の方がこのモデルを見て、あるいは使ってみたらどう感じるのか、どのような授業になるのかを検証していく必要がある。

来年度も多くの方々の協力を得ながら、対面授業にも劣らない、そして多くの方に使って喜んでもらえる遠隔授業モデルの構築に向けて努力を続けていきたい。

日本語教育のための効果的な遠隔授業モデル構築プロジェクト  
プロジェクト委員長 西村 学  
(学校法人文化学園 文化外国語専門学校 副校長)

2022 年度文部科学省委託事業

専修学校における先端技術利活用実証研究

**日本語教育のための効果的な遠隔授業モデル  
構築プロジェクト  
事業報告書**

学校法人文化学園 文化外国語専門学校

---

発行年月日 2023年2月28日

発行・編集 学校法人文化学園 文化外国語専門学校

〒151-8521 東京都渋谷区代々木 3-22-1

電話 03-3299-2011

---

本報告書は、文部科学省の教育推進事業委託費による委託事業として、学校法人文化学園 文化外国語専門学校が実施した令和4年度「専修学校における先端技術利活用実証研究」の成果をとりまとめたものです。